

2022年度

*FD*報告集



帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY

令和4年度FD報告集の刊行によせて

本学では、平成14年度にFD推進室を設置、平成24年度にはFD推進室、学習支援室、全学共通教育センターの3つを統合・改組して全学教育開発センターを設置し、以来、当センターが主体となって大学全体のFDを推進してきた。各種活動は、管轄のFD推進委員会での検討・審議を経て実施することになっているが、委員会に提案する原案は、従来から、センター内に設けられたFD推進検討チームで作成していただいている。また、本報告集の作成も同チームにお願いしてきたところである。この場をお借りして、メンバーの皆様に感謝申し上げる。

今年度は原則、通常の対面授業に戻ったことから、FD活動についても、当初の予定通り実施することができた。

(1) 授業改善アンケートは、昨年度後期と同様、本学独自の e-Learning システム TALES を活用してそれぞれの授業時間内に行うよう依頼した結果、前後期とも昨年度よりは回収率が高くなった。しかし、学部間の差が大きく、今後さらなる改善が望まれる。

(2) 公開授業・授業参観は、令和2年度と3年度はコロナで実施できなかったが、今年度は当初の予定通り前後期とも実施し、学部・センター内で充実した検討会も行われた。

(3) 学内FDフォーラムは、近年本学で盛んに行われているプロジェクト型学習の実践報告と多様化する学生支援に係る学内連携と合理的配慮を扱い、多くの参加者を得て活発な意見交換が行われた。

多様な入試によって多様な学習動機・学力の学生が入学する中、それらの学生を教育面で満足させるには、授業運営における各教員のさらなる工夫と学科等の組織による有効な対応が求められるところであり、今後とも当センターが中心となって、各種FD活動を通じて全学的な教育改善が行えるよう取り組んでいきたい。

令和5年3月

帝塚山大学 全学教育開発センター長
大西 智之

目次

FD報告集の刊行によせて

I. 授業改善アンケート	1
II. 学生ヒアリング	43
III. FDフォーラム	51
IV. 公開授業	55
V. FD推進委員会	74
VI. 全学教育開発センターFD推進検討チーム	79

I. 授業改善アンケート

1. 2022 年度 授業改善アンケート集計結果

実施概要

前期については、前年度後期に引き続き TALES の各授業コース内でのアンケート形式で、原則全科目を対象として実施した。後期については、各教員原則、履修者数が最も多い 1 科目を対象に TALES 上で実施した。TALES 上での WEB アンケートという形で実施した。

(1) 実施目的

学生によるアンケートを実施することで、開講されている授業に関する全体的傾向を把握するとともに、各担当教員に基礎データを提供し、授業改善に役立てる。

(2) 実施方法

<対象科目>

前期：原則として、学部・全学教育開発センター開講の全ての科目

後期：原則として、各教員の担当する履修者数が最も多い 1 科目

(リレー講義、集中講義、共同担当科目、履修登録者が 3 名以下の科目は除く)

<調査方法>

前期：TALES の各授業コース内で実施

後期：TALES の各授業コース内で実施

(3) 回収数、回収率

	在学生数	対象科目数	対象科目の 延べ履修登録者数	回収数	回収率
前期	3,425	809	29,776	13,584	45.6%
後期		267	14,860	5,592	37.6%

※在学生数は 2022 年 5 月 1 日現在

(4) 実施期間

前期：2022 年 6 月 3 日（金）～6 月 9 日（木）

後期：2022 年 11 月 7 日（月）～11 月 12 日（土）

(5) アンケート項目

対面授業、遠隔授業いずれにもあてはまる項目として、以下の 14 項目を設定した。

	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	-
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	-
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30 分未満	30 分～1 時間	1 時間～2 時間	2 時間～3 時間	3 時間～4 時間	4 時間以上
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-

結果概要

以下に、全学的な傾向についてまとめる。授業運営に関する項目から学生の学びに関する項目へとすすむように配列を変え、各質問の内容をあらわす表題をつけた。

回収率は、科目の開講学部等によってばらつきがみられるが、前期は45.6%（昨年度は23.3%）、後期は37.6%（昨年度は37.4%）と、いずれも向上している。

1. 進捗 約8割が「適切」

「あなたにとってこの授業の進捗は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は、前期が78.2%（昨年度は83.3%）、後期が80.2%（昨年度は81.0%）であった。

2. 難易度 約6割が「適切」

「あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は、前期が60.1%（昨年度は61.5%）、後期が64.2%（昨年度は59.0%）であった。一方、「難しい」と「やや難しい」と答えた学生の割合をあわせると、前期は33.4%（昨年度は32.6%）、後期は28.0%（昨年度は35.9%）であった。

3. シラバスとの整合性 8割以上の授業が整合的

「授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると、前期は83.2%（昨年度は88.2%）、後期は83.6%（昨年度は84.8%）であった。

4. 理解度の確認 9割近くが理解度確認

「講師は受講生の理解度を確認しながら授業を進めていますか」という質問に対して、「進めている」と「ある程度進めている」と答えた学生の割合をあわせると、前期は87.8%（昨年度は87.3%）、後期は90.5%（昨年度は87.4%）であった。

5. 教材の適切性 約96%が適切な教材

「授業内に配布あるいは提示される教材（教科書を含む）は授業内容に沿った適切なものですか」という質問に対して、「適切である」と「ある程度適切である」と答えた学生の割合をあわせると、前期は96.6%（昨年度は96.0%）、後期は96.8%（昨年度は96.1%）であった。

6. 説明の分かりやすさ 8割以上が分かりやすい説明

「講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか」という質問に対して、「分かりやすい」と「ある程度分かりやすい」と答えた学生の割合をあわせると、前期は85.5%（昨年度は84.5%）、後期は88.6%（昨年度は86.9%）であった。

7. 授業内容への関心度 約9割近くが関心あり

「授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか」という質問に対して、「関心を持てる」と「ある程度関心を持てる」と答えた割合をあわせると、前期は87.2%（昨年度は89.9%）、後期は88.4%（昨年度は88.2%）であった。

8. 授業外での学習支援 支援体制はあるが約34%が「質問したことがない」

「講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか」という質問に対して、「受けられる」と「ある程度受けられる」と答えた学生の割合をあわせると、前期は79.3%（昨年度は59.8%）、後期は61.7%（昨年度は59.2%）であった。なお、「質問をしたことがない」と答えた学生は、前期が34.3%（昨年度は35.2%）、後期が34.0%（昨年度は34.5%）であった。

9. 学生への接し方 9割以上の満足度

「講師の学生への接し方に満足していますか」という質問に対して、「満足している」と「ある程度満足している」と答えた学生の割合をあわせると、前期で90.5%（昨年度は91.9%）、後期で92.2%（昨年度は91.0%）となった。

10. 課題に対する説明 約8割の授業で説明あり

「課題の解答等に対する説明は行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると、前期は86.0%（昨年度は76.8%）、後期は88.2%（昨年度は83.9%）であった。

11. 授業外学修時間 約86%が2時間未満 「30分未満」が増加

「予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）」という質問に対して、前期は「30分未満」（32.7%、昨年度は14.7%）が最も多く、次いで「1時間～2時間」（27.9%、昨年度は40.4%）、「30分～1時間」（26.0%、昨年度は29.9%）の順で、2時間までの学修時間の学生が86.6%（昨年度は85.0%）を占める。後期も前期と同じく、「30分未満」（30.8%、昨年度は20.0%）、「1時間～2時間」（28.0%、昨年度は31.5%）、「30分～1時間」（27.4%、昨年度32.9%）の順で、86.2%（昨年度は84.4%）が2時間未満の学修時間である。

12. 意欲的な学び 約9割は意欲的

「この授業に意欲的に取り組んでいますか」という質問に、「意欲的に取り組んでいる」と「ある程度意欲的に取り組んでいる」と答えた学生は、前期が89.9%（昨年度は90.7%）、後期が90.7%（昨年度は90.1%）であった。

13. 学修到達度 約8割は力がついている

「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という質問に、「力がついてきている」と「ある程度力がついてきている」と答えた学生をあわせると、前期は79.0%（昨年度は81.6%）、後期は80.4%（昨年度は79.7%）であった。一方、「到達目標を知らない」という学生が、前期で6.6%（昨年度は5.2%）、後期で7.3%（昨年度は5.8%）いた。

14. 授業の意義 9割以上が「意義あり」

「総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか」という質問に、「意義がある」「ある程度意義がある」と答えた学生をあわせると、前期は91.5%（昨年度は91.4%）、後期は93.8%（昨年度は92.8%）であった。

今後の課題

授業運営と学生の学びに関する質問項目については、開講学部等によるばらつきはあるものの、全体としては、おおむね良好な結果となった。とりわけ、「教材の適切性」「説明の分かりやすさ」「課題に対する説明」「理解度の確認」「授業外での学習支援」などの授業運営に関わる項目においては、前期・後期ともに、昨年度の数値を上回る結果となった。

一方、学生の学びに関する項目については、「授業の意義」を認める割合が、前期・後期ともに昨年度から向上したものの、以前からの課題である「授業外学修時間」については、昨年度から低下する結果となった。とりわけ、「30分未満」と答えた学生の割合が、前期で18ポイント、後期で10.8ポイントも急増したことは重く受けとめる必要がある。今回、授業外の学修を「しなかった」という選択肢を入れていないが、これまでの調査結果をふまえると、「30分未満」のなかには、まったく自習をしない学生が含まれていることが推測される。

ちなみに、「30分未満」の割合は、2020年度後期、2021年度前期・後期の順に「18.2% → 14.7% → 20.0%」と推移している（2020年度前期は実施せず）。これらの期間は、授業のほとんどがオンラインで実施されていた時期と重なり、学生たちが課題に忙殺されるなかで授業外学修時間が増加したとみることもできる。2022年度前期から全面的に対面授業になったことを考えると、オンラインと対面との学びのありかたにコントラストがあるようにもみえる。なお参考までに、2018年度と2019年度の授業改善アンケートでは、質問文が若干異なるものの、「30分前後」と答えた学生の割合は20%以上を占める。

従来から、「授業外学修時間」の増加とともに課題であったのが、回収率の向上である。今回、前期・後期ともに回収率は改善し、前期では全開講科目を対象としたにもかかわらず、前年度から22.3ポイントも向上した。これは、授業時間内で各教員が回答を促したことが功を奏したと考えられる。引き続き回収率の向上につとめる必要があるが、学生の回答への負荷を軽減する目的で、実施を年一回とすることも検討している（たとえば、2023年度は前期、2024年度は後期に実施）。

以上のような課題以外にも、開講学部等や学年別の分析だけではなく、各項目間の関連性についても分析・検討する必要がある。

2022 年度前期授業アンケート集計結果

1. 概要

2022 年 6 月 3 日～9 日の間、行った授業アンケートについて、集計を行った。アンケートの実施概要を表 1 に示す。

表 1：2022 年度 前期授業アンケート実施内容

アンケート実施日	2022 年 6 月 3 日 (2022/06/03 00:00) ～6 月 10 日 (2022/06/9 00:00)
アンケート対象	帝塚山大学在校生
アンケート実施方法	TALES のアンケートモジュールにより実施

2. アンケート回答状況

アンケートの対象とした講義、及び対象とした講義の受講者（対象者数）はともに、昨年度より大幅に増え、それぞれ、809 講義、29,776 名であった。また、回答率は昨年度より約 2 割増加し 45.6%であった。詳細を表 2、表 3 に示す。

表 2：アンケート回答状況（全体）

	2022 年度前期	2021 年度後期
アンケート実施日	2022 年 6 月 3 日- 9 日	2021 年 11 月 8 日- 11 月 20 日
対象講義数	809	268
対象受講者数（のべ）	29,776 (2,741)	15,928 (2,204)
回答者数	13,584	5,957
回答率（回答数／のべ受講者数）	45.6%	37.4%

表 3：アンケート回答状況（学部別）

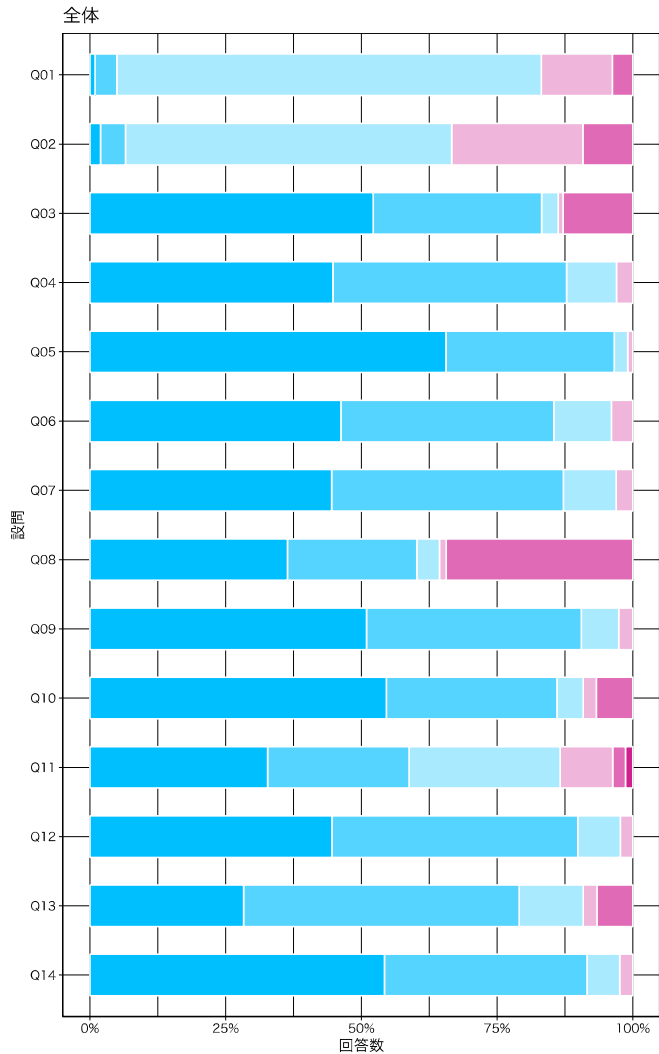
	開講学部	講義数	受講生※	回答者数	回答率	2021 年度 回答率
講義開講学部	文学部	137	4,232	1,222	28.9%	37.4%
	経済経営学部	116	4,461	1,976	44.3%	31.6%
	法学部	67	1,999	920	46.0%	39.1%
	心理学部	34	2,208	1,350	61.1%	57.8%
	現代生活学部	164	6,074	3,321	54.7%	43.9%
	教育学部	103	4,072	1,980	48.6%	35.7%
	大学共通	188	6,730	2,815	41.8%	24.2%
教員所属学部	文学部	72	2,205	702	31.8%	36.3%
	経済経営学部	81	2,679	1,249	46.6%	34.4%
	法学部	54	1,811	852	47.0%	36.5%
	心理学部	14	920	655	71.2%	74.2%
	現代生活学部	80	2,684	1,840	68.6%	51.3%
	教育学部	56	2,000	1,041	52.1%	43.7%
	大学共通	84	2,053	1,174	57.2%	35.5%
	非常勤	368	15,424	6,071	39.4%	32.2%

※TALES のコースに学生ロールで登録されていたユーザー

3. アンケート集計結果

(1) 全学部

アンケート回答を全学部について集計した結果を図1に示す。



No	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	
Q02	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	
Q03	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ている	
Q04	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない		
Q05	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない		
Q06	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい		
Q07	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない		
Q08	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	
Q09	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	満足していない		
Q10	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	
Q11	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上
Q12	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない		
Q13	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	
Q14	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない		

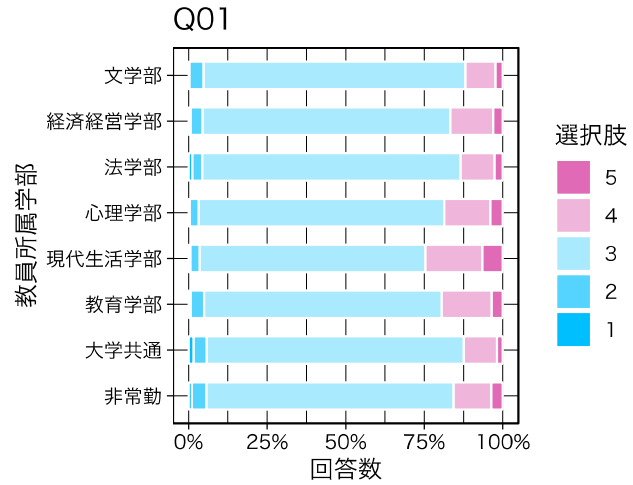
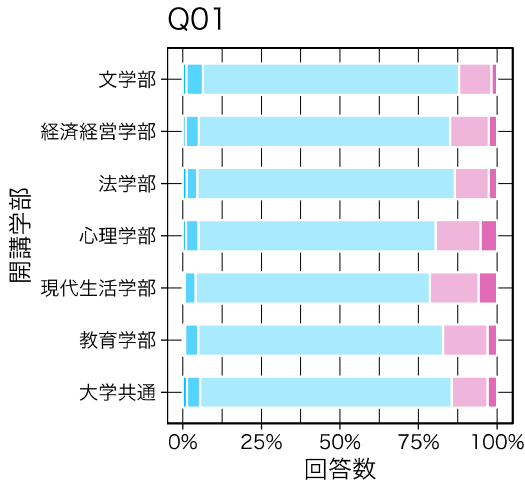
	1	2	3	4	5	6
Q01	0.9%	4.0%	78.2%	13.1%	3.8%	0.0%
Q02	1.9%	4.6%	60.1%	24.2%	9.2%	0.0%
Q03	52.2%	31.0%	3.0%	0.9%	12.9%	0.0%
Q04	44.8%	43.0%	9.2%	3.0%	0.0%	0.0%
Q05	65.6%	31.0%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%
Q06	46.3%	39.2%	10.6%	4.0%	0.0%	0.0%
Q07	44.5%	42.7%	9.7%	3.1%	0.0%	0.0%
Q08	36.4%	23.9%	4.2%	1.3%	34.3%	0.0%
Q09	51.0%	39.5%	6.9%	2.6%	0.0%	0.0%
Q10	54.6%	31.4%	4.8%	2.4%	6.7%	0.0%
Q11	32.7%	26.0%	27.9%	9.6%	2.3%	1.4%
Q12	44.6%	45.3%	7.9%	2.3%	0.0%	0.0%
Q13	28.3%	50.7%	11.8%	2.5%	6.6%	0.0%
Q14	54.2%	37.3%	6.0%	2.4%	0.0%	0.0%

図1：全学部アンケート集計結果

(2) 学部別アンケート結果

以下に、設問毎のアンケート集計結果を開講学部毎、教員所属学部毎に示す。

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	

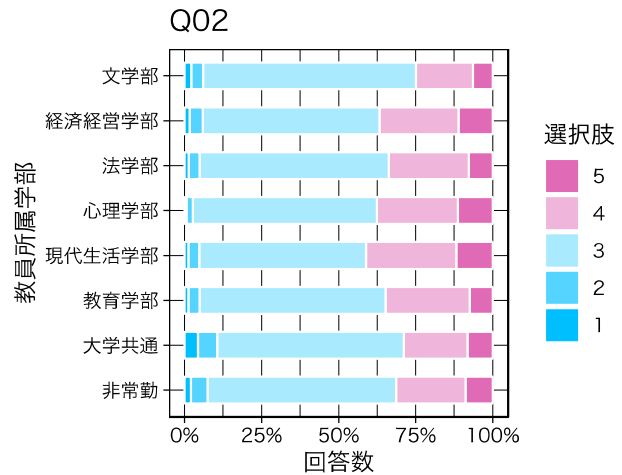
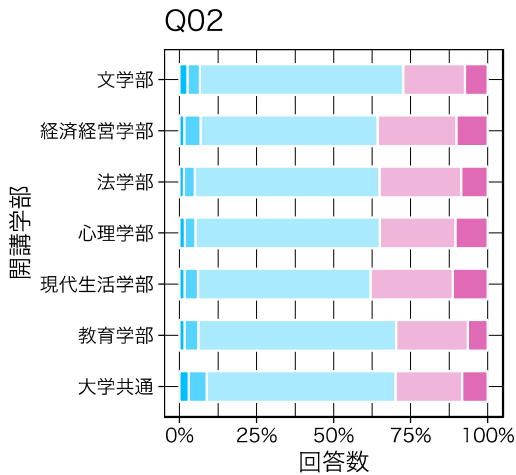


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	1.1%	5.2%	81.5%	10.2%	1.9%	0.0%
経済経営学部	0.9%	4.2%	80.0%	12.3%	2.6%	0.0%
法学部	1.2%	3.4%	82.0%	10.8%	2.6%	0.0%
心理学部	1.0%	4.1%	75.5%	14.2%	5.3%	0.0%
現代生活学部	0.6%	3.5%	74.6%	15.5%	5.9%	0.0%
教育学部	0.7%	4.2%	77.9%	14.2%	3.0%	0.0%
大学共通	1.3%	4.2%	80.1%	11.4%	3.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	0.3%	4.4%	83.3%	9.5%	2.4%	0.0%
経済経営学部	0.6%	3.8%	78.8%	13.7%	3.0%	0.0%
法学部	0.6%	3.8%	78.8%	13.7%	3.0%	0.0%
心理学部	1.2%	3.2%	82.1%	10.8%	2.7%	0.0%
現代生活学部	0.3%	2.9%	78.1%	14.7%	4.0%	0.0%
教育学部	0.3%	2.9%	78.1%	14.7%	4.0%	0.0%
大学共通	0.5%	3.0%	71.8%	18.1%	6.5%	0.0%
非常勤	0.7%	4.2%	75.6%	15.9%	3.6%	0.0%

図2：Q1のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q02	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	

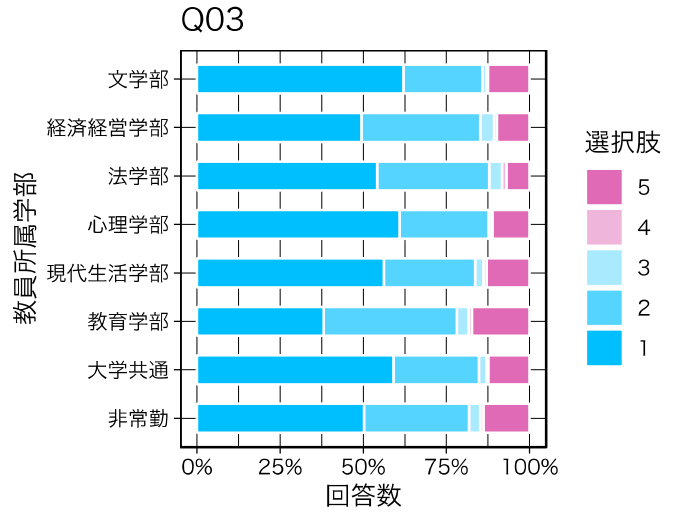
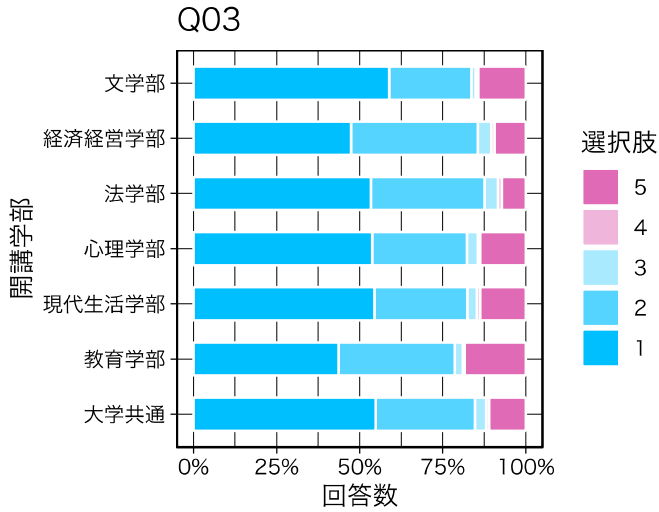


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	2.5%	4.0%	66.0%	20.0%	7.4%	0.0%
経済経営学部	1.5%	5.3%	57.5%	25.5%	10.2%	0.0%
法学部	1.4%	3.5%	60.0%	26.5%	8.6%	0.0%
心理学部	1.7%	3.4%	59.9%	24.5%	10.5%	0.0%
現代生活学部	1.6%	4.3%	56.1%	26.7%	11.3%	0.0%
教育学部	1.6%	4.5%	64.2%	23.3%	6.4%	0.0%
大学共通	2.9%	5.8%	61.3%	21.6%	8.3%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	2.1%	3.8%	69.1%	18.5%	6.4%	0.0%
経済経営学部	1.7%	4.2%	57.2%	25.7%	11.1%	0.0%
法学部	1.7%	4.2%	57.2%	25.7%	11.1%	0.0%
心理学部	1.3%	3.5%	61.4%	26.0%	7.8%	0.0%
現代生活学部	0.6%	2.1%	59.7%	26.3%	11.3%	0.0%
教育学部	1.2%	3.6%	54.1%	29.4%	11.8%	0.0%
大学共通	1.3%	3.7%	60.3%	27.3%	7.4%	0.0%
非常勤	4.3%	6.2%	60.6%	20.7%	8.2%	0.0%

図3：Q2のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q03	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	



開講学部

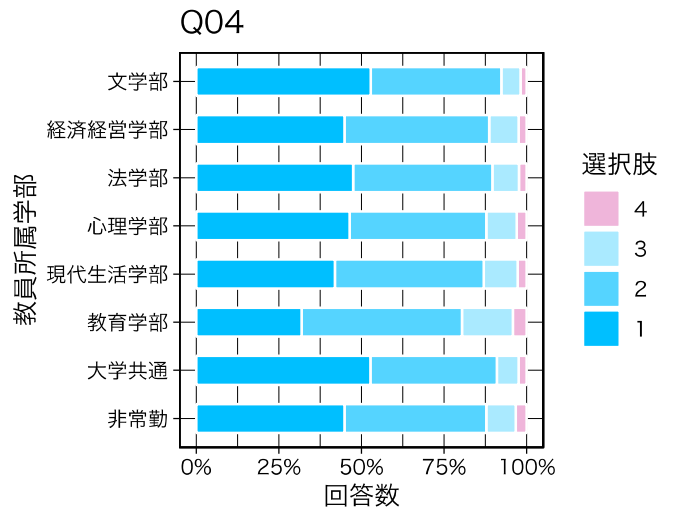
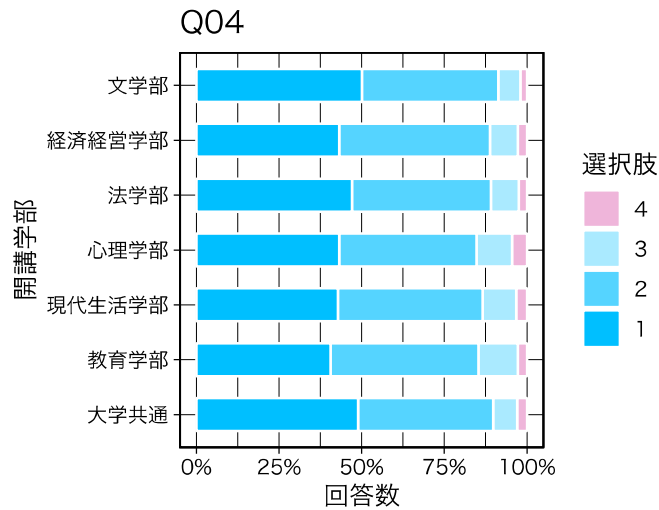
	1	2	3	4	5	6
文学部	58.9%	24.7%	1.3%	0.7%	14.4%	0.0%
経済経営学部	47.4%	38.1%	4.1%	1.0%	9.5%	0.0%
法学部	53.4%	34.1%	4.0%	1.2%	7.2%	0.0%
心理学部	53.8%	28.4%	3.3%	0.7%	13.8%	0.0%
現代生活学部	54.4%	28.0%	2.9%	1.0%	13.8%	0.0%
教育学部	43.7%	35.0%	2.3%	0.7%	18.4%	0.0%
大学共通	54.8%	29.9%	3.3%	0.9%	11.1%	0.0%
非常勤						

教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	62.1%	23.8%	1.1%	0.4%	12.6%	0.0%
経済経営学部	49.5%	35.7%	4.1%	0.9%	9.8%	0.0%
法学部	54.2%	33.7%	3.9%	1.3%	6.9%	0.0%
心理学部	60.9%	26.7%	0.9%	0.3%	11.1%	0.0%
現代生活学部	56.2%	27.4%	2.6%	0.9%	12.9%	0.0%
教育学部	38.1%	40.1%	3.6%	1.0%	17.3%	0.0%
大学共通	59.0%	25.7%	2.3%	0.5%	12.4%	0.0%
非常勤	50.2%	31.6%	3.4%	1.0%	13.9%	0.0%

図4：Q3のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q04	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない		



開講学部

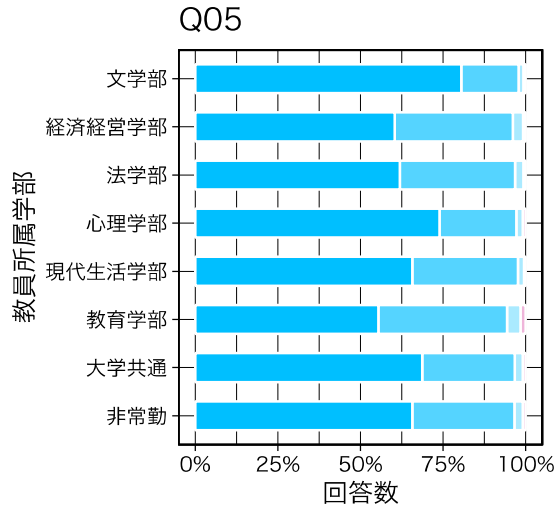
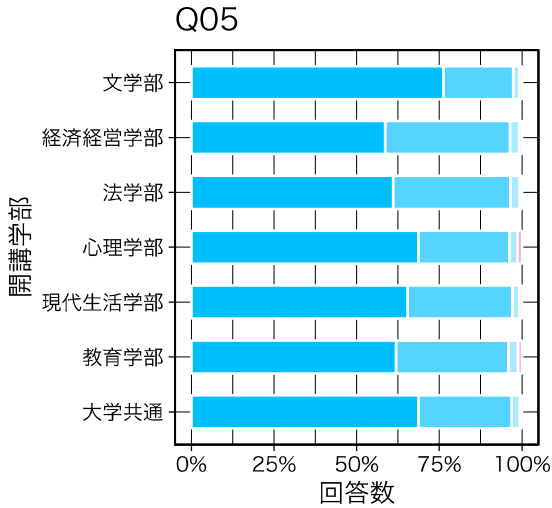
	1	2	3	4	5	6
文学部	50.0%	41.3%	6.7%	2.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	43.2%	45.7%	8.3%	2.8%	0.0%	0.0%
法学部	47.0%	42.0%	8.4%	2.5%	0.0%	0.0%
心理学部	43.2%	41.6%	10.7%	4.5%	0.0%	0.0%
現代生活学部	42.8%	43.7%	10.2%	3.2%	0.0%	0.0%
教育学部	40.6%	44.8%	11.9%	2.8%	0.0%	0.0%
大学共通	48.9%	40.9%	7.3%	2.9%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	52.8%	39.5%	5.8%	1.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	44.8%	43.8%	8.9%	2.5%	0.0%	0.0%
法学部	47.5%	42.1%	8.0%	2.4%	0.0%	0.0%
心理学部	46.4%	41.4%	9.2%	3.1%	0.0%	0.0%
現代生活学部	42.0%	45.1%	10.2%	2.8%	0.0%	0.0%
教育学部	31.9%	48.5%	15.5%	4.1%	0.0%	0.0%
大学共通	52.7%	38.3%	6.6%	2.5%	0.0%	0.0%
非常勤	44.8%	42.9%	8.9%	3.3%	0.0%	0.0%

図5：Q4のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q05	授業内に配付あるいは提示される教材(教科書も含む)は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない		



開講学部

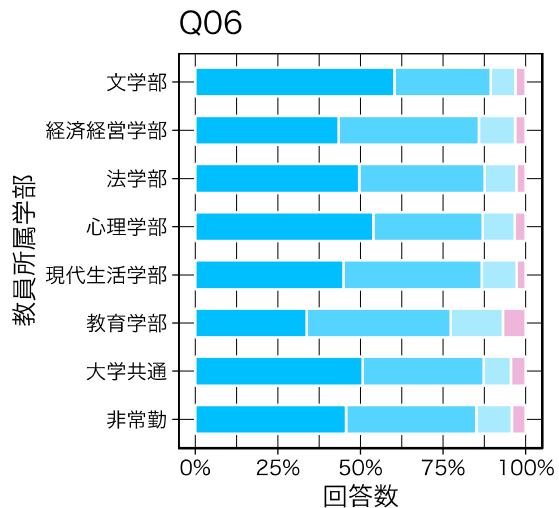
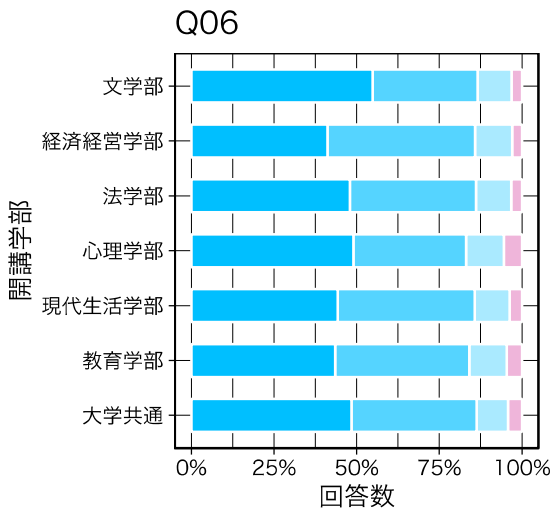
	1	2	3	4	5	6
文学部	76.3%	21.0%	1.9%	0.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	58.6%	37.8%	2.8%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	61.0%	35.5%	2.7%	0.8%	0.0%	0.0%
心理学部	68.7%	27.4%	2.4%	1.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	65.4%	31.6%	2.2%	0.8%	0.0%	0.0%
教育学部	61.9%	34.0%	3.0%	1.2%	0.0%	0.0%
大学共通	68.7%	28.1%	2.5%	0.7%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	80.5%	17.4%	1.4%	0.7%	0.0%	0.0%
経済経営学部	60.4%	35.7%	3.1%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	61.9%	34.9%	2.5%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	74.0%	23.1%	2.0%	0.9%	0.0%	0.0%
現代生活学部	65.7%	31.9%	1.9%	0.5%	0.0%	0.0%
教育学部	55.4%	38.9%	4.0%	1.6%	0.0%	0.0%
大学共通	68.7%	28.0%	2.4%	0.9%	0.0%	0.0%
非常勤	65.6%	30.9%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%

図6：Q5のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q06	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい		



開講学部

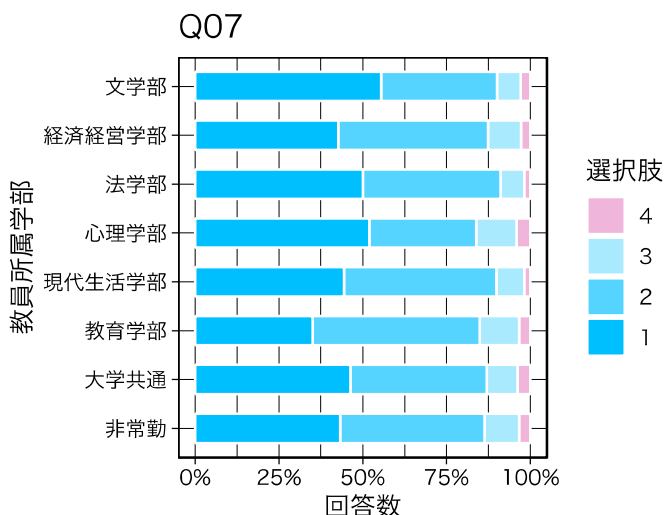
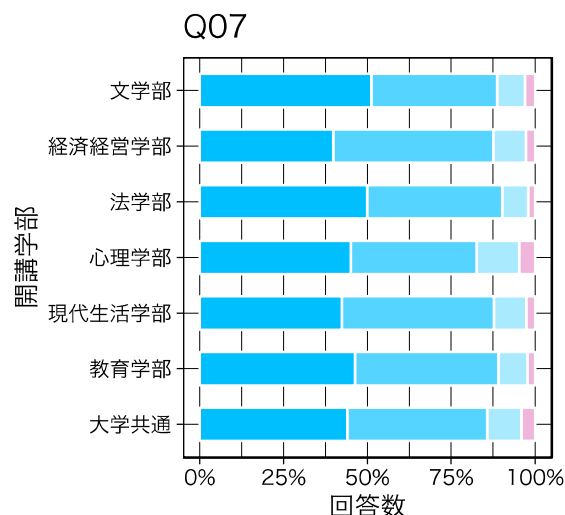
	1	2	3	4	5	6
文学部	54.8%	31.8%	10.2%	3.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	41.2%	44.6%	11.2%	2.9%	0.0%	0.0%
法学部	47.9%	38.2%	10.6%	3.3%	0.0%	0.0%
心理学部	49.1%	34.0%	11.4%	5.5%	0.0%	0.0%
現代生活学部	44.3%	41.4%	10.6%	3.7%	0.0%	0.0%
教育学部	43.5%	40.6%	11.3%	4.7%	0.0%	0.0%
大学共通	48.5%	37.8%	9.5%	4.2%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	60.3%	29.2%	7.4%	3.1%	0.0%	0.0%
経済経営学部	43.4%	42.4%	10.9%	3.3%	0.0%	0.0%
法学部	49.6%	38.0%	9.6%	2.8%	0.0%	0.0%
心理学部	53.8%	33.1%	9.7%	3.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	44.9%	41.8%	10.5%	2.8%	0.0%	0.0%
教育学部	33.7%	43.6%	15.7%	6.9%	0.0%	0.0%
大学共通	50.7%	36.6%	8.2%	4.5%	0.0%	0.0%
非常勤	45.6%	39.4%	10.8%	4.1%	0.0%	0.0%

図7：Q6のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q07	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない		

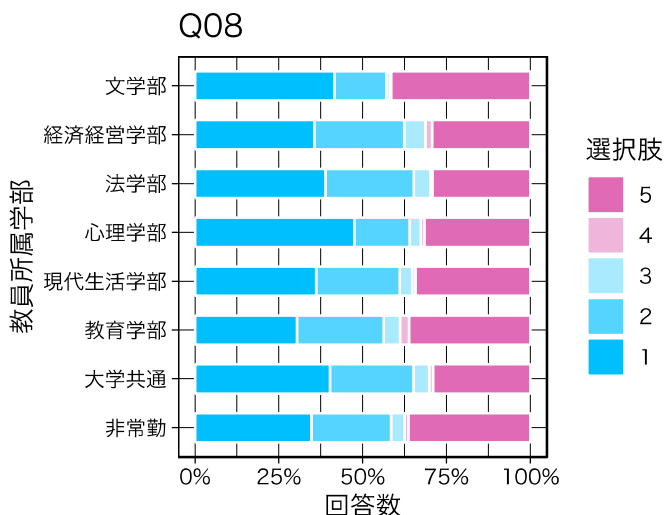
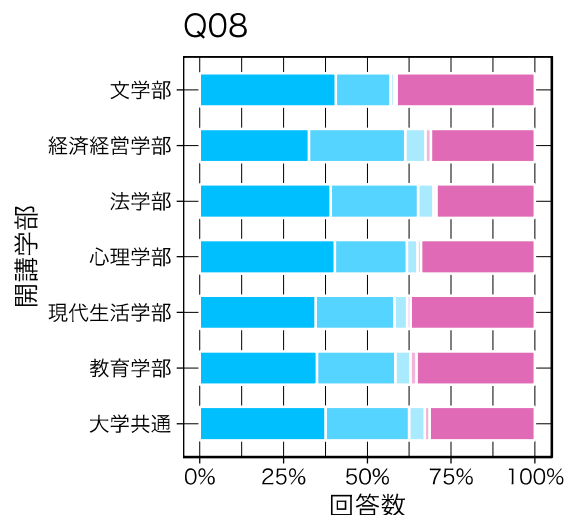


	1	2	3	4	5	6
文学部	51.2%	37.5%	8.4%	3.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	39.8%	47.7%	9.8%	2.7%	0.0%	0.0%
法学部	49.9%	40.3%	7.7%	2.1%	0.0%	0.0%
心理学部	45.1%	37.5%	12.8%	4.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	42.4%	45.3%	9.7%	2.6%	0.0%	0.0%
教育学部	46.3%	42.8%	8.7%	2.2%	0.0%	0.0%
大学共通	44.0%	41.7%	10.2%	4.1%	0.0%	0.0%
非常勤						

	1	2	3	4	5	6
文学部	55.5%	34.5%	7.1%	2.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	42.7%	44.7%	9.8%	2.8%	0.0%	0.0%
法学部	50.1%	41.1%	7.1%	1.8%	0.0%	0.0%
心理学部	51.9%	32.0%	12.0%	4.1%	0.0%	0.0%
現代生活学部	44.4%	45.4%	8.3%	1.9%	0.0%	0.0%
教育学部	35.1%	49.8%	11.8%	3.4%	0.0%	0.0%
大学共通	46.3%	40.7%	9.1%	3.8%	0.0%	0.0%
非常勤	43.3%	43.0%	10.3%	3.4%	0.0%	0.0%

図8：Q7のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q08	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	

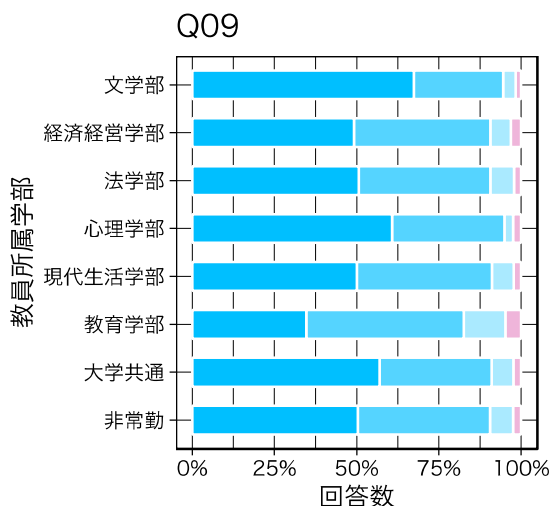
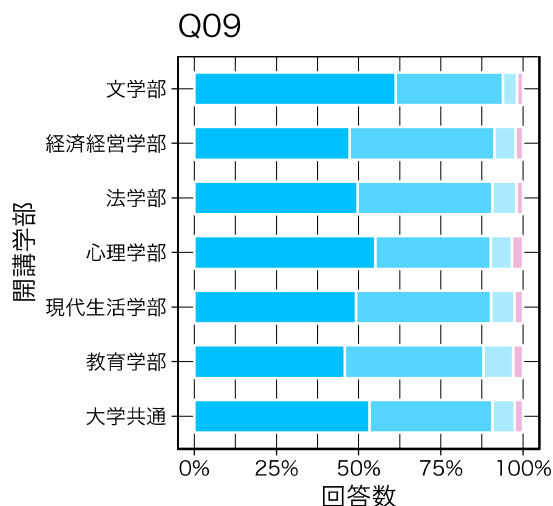


	1	2	3	4	5	6
文学部	40.5%	16.4%	1.1%	0.7%	41.3%	0.0%
経済経営学部	32.6%	28.7%	6.0%	1.6%	31.1%	0.0%
法学部	39.1%	26.0%	4.6%	0.9%	29.4%	0.0%
心理学部	40.3%	21.5%	3.1%	1.1%	34.0%	0.0%
現代生活学部	34.6%	23.5%	3.9%	1.0%	37.1%	0.0%
教育学部	34.9%	23.4%	4.5%	1.8%	35.4%	0.0%
大学共通	37.5%	24.9%	4.7%	1.4%	31.5%	0.0%
非常勤						

	1	2	3	4	5	6
文学部	41.6%	15.4%	1.1%	0.4%	41.5%	0.0%
経済経営学部	35.6%	26.8%	6.4%	2.0%	29.3%	0.0%
法学部	38.9%	26.4%	4.9%	0.6%	29.2%	0.0%
心理学部	47.5%	16.5%	3.4%	1.1%	31.6%	0.0%
現代生活学部	36.1%	24.9%	3.8%	1.0%	34.2%	0.0%
教育学部	30.4%	25.9%	4.9%	2.7%	36.2%	0.0%
大学共通	40.2%	24.9%	4.7%	1.2%	29.0%	0.0%
非常勤	34.7%	23.8%	4.0%	1.2%	36.4%	0.0%

図9：Q8のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q09	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である		



開講学部

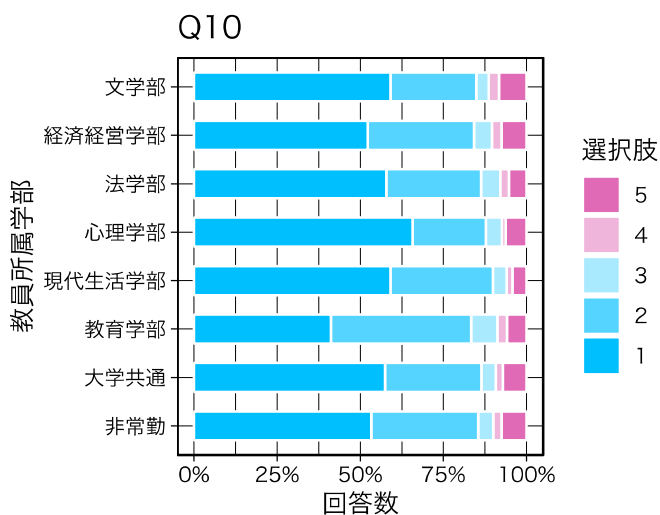
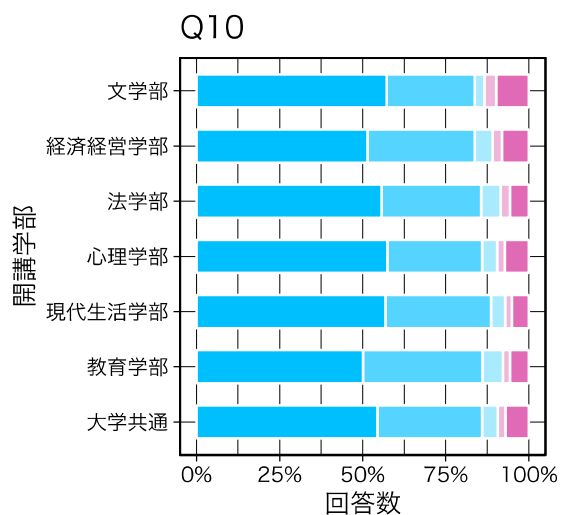
	1	2	3	4	5	6
文学部	61.2%	32.7%	4.3%	1.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	47.3%	44.0%	6.4%	2.3%	0.0%	0.0%
法学部	49.6%	41.0%	7.3%	2.1%	0.0%	0.0%
心理学部	55.0%	35.3%	6.4%	3.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	49.2%	41.1%	7.1%	2.7%	0.0%	0.0%
教育学部	45.8%	42.1%	9.1%	3.0%	0.0%	0.0%
大学共通	53.3%	37.4%	6.8%	2.5%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	67.4%	27.2%	3.7%	1.7%	0.0%	0.0%
経済経営学部	49.2%	41.5%	6.2%	3.1%	0.0%	0.0%
法学部	50.6%	40.1%	7.2%	2.1%	0.0%	0.0%
心理学部	60.8%	34.2%	2.6%	2.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	50.0%	41.1%	6.6%	2.3%	0.0%	0.0%
教育学部	34.7%	47.9%	12.6%	4.8%	0.0%	0.0%
大学共通	56.9%	34.1%	6.6%	2.3%	0.0%	0.0%
非常勤	50.3%	40.2%	7.1%	2.4%	0.0%	0.0%

図10：Q9のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q10	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	57.2%	26.5%	2.9%	3.5%	9.8%	0.0%
経済経営学部	51.5%	32.3%	5.3%	2.8%	8.1%	0.0%
法学部	55.7%	29.9%	5.9%	2.8%	5.7%	0.0%
心理学部	57.4%	28.5%	4.5%	2.3%	7.3%	0.0%
現代生活学部	56.9%	31.7%	4.3%	2.1%	5.1%	0.0%
教育学部	50.1%	35.9%	6.2%	2.1%	5.7%	0.0%
大学共通	54.5%	31.4%	4.8%	2.3%	7.1%	0.0%
非常勤						

教員所属学部

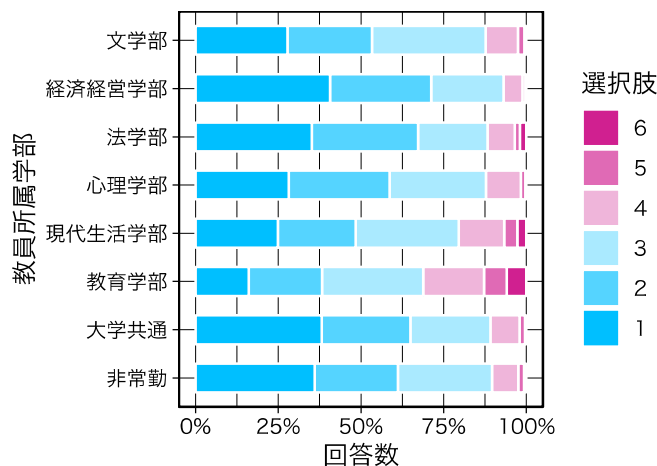
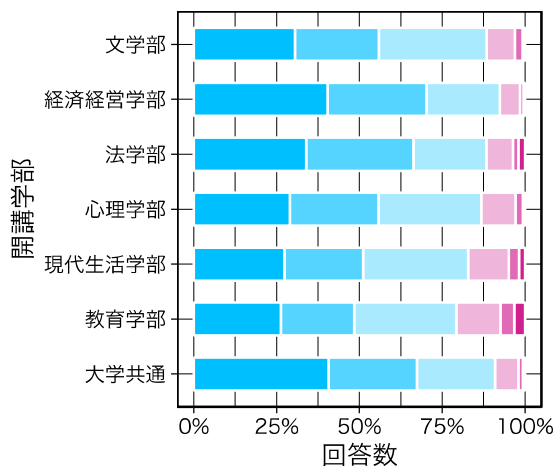
	1	2	3	4	5	6
文学部	59.1%	25.8%	3.7%	3.1%	8.3%	0.0%
経済経営学部	52.2%	32.0%	5.5%	2.9%	7.5%	0.0%
法学部	57.8%	28.5%	5.8%	2.6%	5.3%	0.0%
心理学部	65.7%	22.0%	4.9%	1.1%	6.3%	0.0%
現代生活学部	59.1%	30.8%	4.1%	1.7%	4.2%	0.0%
教育学部	41.2%	42.2%	7.9%	2.9%	5.9%	0.0%
大学共通	57.5%	29.0%	4.3%	2.1%	7.1%	0.0%
非常勤	53.3%	32.2%	4.4%	2.6%	7.5%	0.0%

図 11：Q10 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q11	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。(授業時間も含める)	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上

Q11

Q11



開講学部

教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	30.5%	25.3%	32.6%	8.5%	2.3%	0.7%
経済経営学部	40.4%	29.9%	22.1%	6.1%	1.1%	0.4%
法学部	33.9%	32.4%	22.1%	8.0%	1.6%	2.0%
心理学部	29.0%	26.7%	31.1%	10.4%	2.1%	0.7%
現代生活学部	27.3%	23.7%	31.7%	12.3%	3.1%	1.8%
教育学部	26.2%	22.2%	30.8%	13.3%	4.2%	3.2%
大学共通	40.7%	26.7%	23.6%	7.0%	1.4%	0.6%
非常勤						

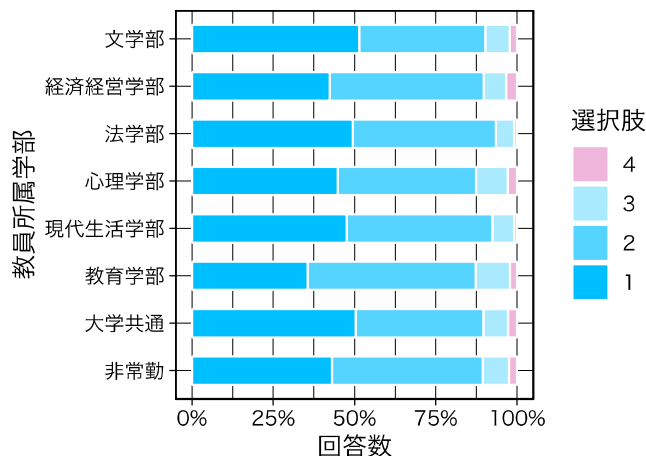
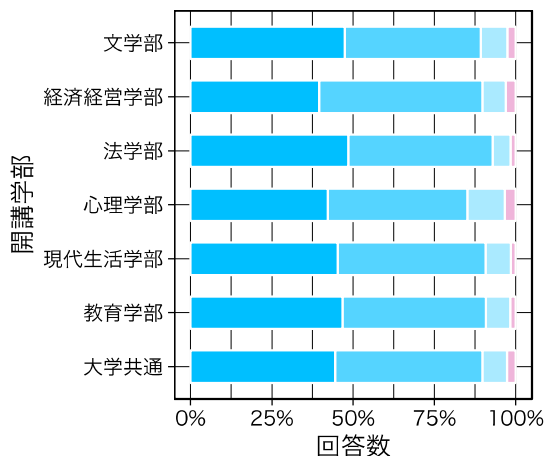
	1	2	3	4	5	6
文学部	27.8%	25.5%	34.4%	9.7%	2.0%	0.6%
経済経営学部	40.7%	30.5%	21.9%	5.7%	0.9%	0.3%
法学部	40.7%	30.5%	21.9%	5.7%	0.9%	0.3%
心理学部	35.1%	32.2%	21.0%	8.2%	1.5%	2.0%
現代生活学部	28.2%	30.4%	29.2%	10.5%	1.4%	0.3%
教育学部	24.9%	23.5%	31.1%	13.8%	4.0%	2.7%
大学共通	24.9%	23.5%	31.1%	13.8%	4.0%	2.7%
非常勤	16.1%	22.2%	30.6%	18.4%	6.9%	5.9%

図 12：Q11 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q12	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない		

Q12

Q12



開講学部

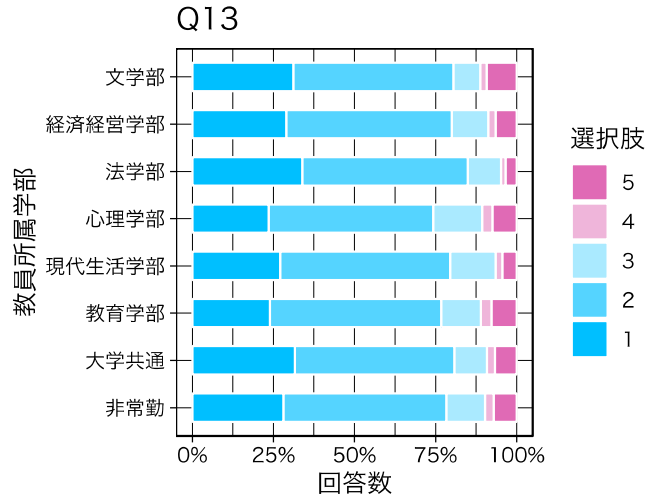
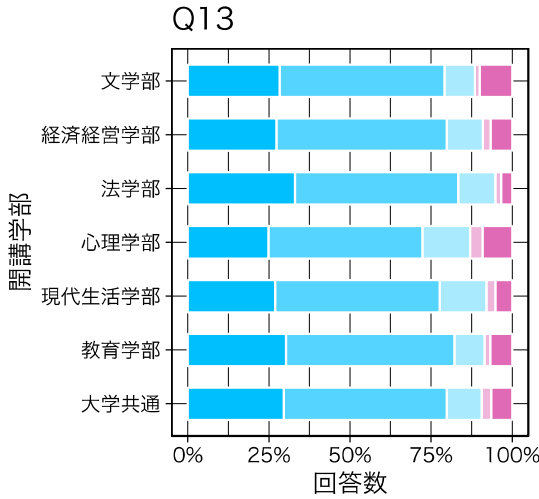
教員所属学部

	1	2	3	4
文学部	47.4%	41.9%	8.1%	2.6%
経済経営学部	39.5%	50.3%	7.2%	3.0%
法学部	48.5%	44.4%	5.6%	1.5%
心理学部	42.2%	42.9%	11.6%	3.3%
現代生活学部	45.2%	45.6%	7.7%	1.5%
教育学部	46.7%	44.1%	7.5%	1.7%
大学共通	44.5%	45.2%	7.6%	2.6%

	1	2	3	4
文学部	51.4%	38.7%	7.5%	2.3%
経済経営学部	42.4%	47.3%	6.9%	3.4%
法学部	42.4%	47.3%	6.9%	3.4%
心理学部	49.5%	44.0%	5.5%	0.9%
現代生活学部	44.9%	42.4%	9.8%	2.9%
教育学部	44.9%	42.4%	9.8%	2.9%
大学共通	47.6%	44.8%	6.7%	0.9%
非常勤	47.6%	44.8%	6.7%	0.9%

図 13 : Q12 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q13	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	

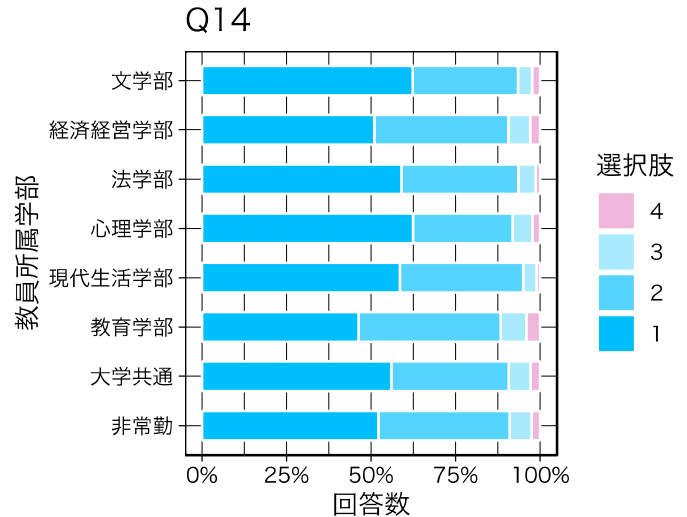
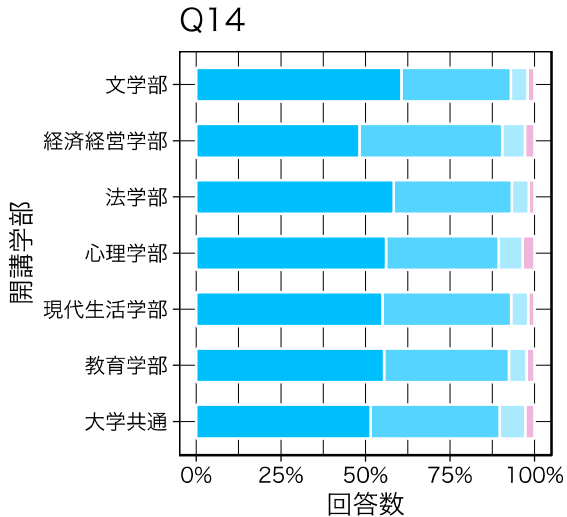


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	28.3%	50.8%	9.3%	1.6%	10.0%	0.0%
経済経営学部	27.3%	52.6%	11.1%	2.3%	6.7%	0.0%
法学部	33.0%	50.3%	11.6%	1.7%	3.4%	0.0%
心理学部	24.8%	47.5%	14.7%	3.8%	9.2%	0.0%
現代生活学部	26.8%	50.8%	14.5%	2.8%	5.1%	0.0%
教育学部	30.2%	51.9%	9.3%	1.7%	6.8%	0.0%
大学共通	29.5%	50.3%	10.8%	3.0%	6.4%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	31.1%	49.4%	8.3%	2.0%	9.3%	0.0%
経済経営学部	29.0%	51.0%	11.2%	2.2%	6.5%	0.0%
法学部	33.9%	51.0%	10.2%	1.4%	3.4%	0.0%
心理学部	23.5%	50.7%	15.1%	3.2%	7.5%	0.0%
現代生活学部	27.0%	52.5%	14.0%	2.1%	4.4%	0.0%
教育学部	23.9%	52.8%	12.2%	3.3%	7.8%	0.0%
大学共通	31.7%	49.1%	10.0%	2.5%	6.7%	0.0%
非常勤	28.1%	50.2%	11.9%	2.7%	7.1%	0.0%

図 14 : Q13 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q14	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない		



開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	60.6%	32.4%	4.9%	2.1%	0.0%	0.0%
経済経営学部	48.3%	42.2%	6.7%	2.9%	0.0%	0.0%
法学部	58.4%	34.9%	5.1%	1.7%	0.0%	0.0%
心理学部	56.2%	33.2%	7.2%	3.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	55.0%	38.1%	5.0%	1.9%	0.0%	0.0%
教育学部	55.5%	36.9%	5.2%	2.4%	0.0%	0.0%
大学共通	51.5%	38.3%	7.5%	2.7%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	62.3%	31.1%	4.2%	2.4%	0.0%	0.0%
経済経営学部	50.9%	39.7%	6.4%	3.0%	0.0%	0.0%
法学部	58.9%	34.6%	5.1%	1.3%	0.0%	0.0%
心理学部	62.4%	29.4%	5.9%	2.3%	0.0%	0.0%
現代生活学部	58.5%	36.5%	4.0%	1.1%	0.0%	0.0%
教育学部	46.3%	42.0%	7.6%	4.1%	0.0%	0.0%
大学共通	56.0%	34.7%	6.4%	2.9%	0.0%	0.0%
非常勤	52.2%	38.8%	6.6%	2.5%	0.0%	0.0%

図 15 : Q14 のアンケート集計

(付録) アンケート質問内容

アンケート質問内容を表 4 に示す。

表 4：2022 年度前期授業アンケート質問内容

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進捗	あなたにとってこの授業の進捗は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	
Q03	シラバスとの 整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確認しながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない		
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない		
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい		
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない		
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である		
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30 分未満	30 分～1 時間	1 時間～2 時間	2 時間～3 時間	3 時間～4 時間	4 時間以上
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない		
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない		

2022 年度後期授業アンケート集計結果

1. 概要

2022 年 11 月 7 日～12 日の間、行った授業アンケートについて、集計を行った。アンケートの実施概要を表 1 に示す。

表 1：2022 年度 前期授業アンケート実施内容

アンケート実施日	2022 年 11 月 7 日 (2022/11/07 09:00) - 11 月 12 日 (2022/11/12 23:59)
アンケート対象	帝塚山大学在校生
アンケート実施方法	TALES のアンケートモジュールにより実施

2. アンケート回答状況

アンケートの対象とした講義、及び対象とした講義の受講者（対象者数）は、それぞれ、267 講義、14,860 名であった。また、回答率は 37.6%であり、2021 年度後期とほぼ同様な結果となった。詳細を表 2、表 3 に示す。

表 2：アンケート回答状況（全体）

	2022 年度後期	2022 年度前期	2021 年度後期
アンケート実施日	2022 年 (11 月 7 日～12 日)	2022 年 (6 月 3 日～10 日)	2021 年 11 月 8 日～11 月 20 日
対象講義数	267	809	268
のべ対象受講者数 (ユニーク)	14,860 (2,068)	29,776 (2,741)	15,928 (2,204)
回答者数	5,592	13,584	5,957
回答率 (回答数/のべ受講者数)	37.6%	45.6%	37.4%

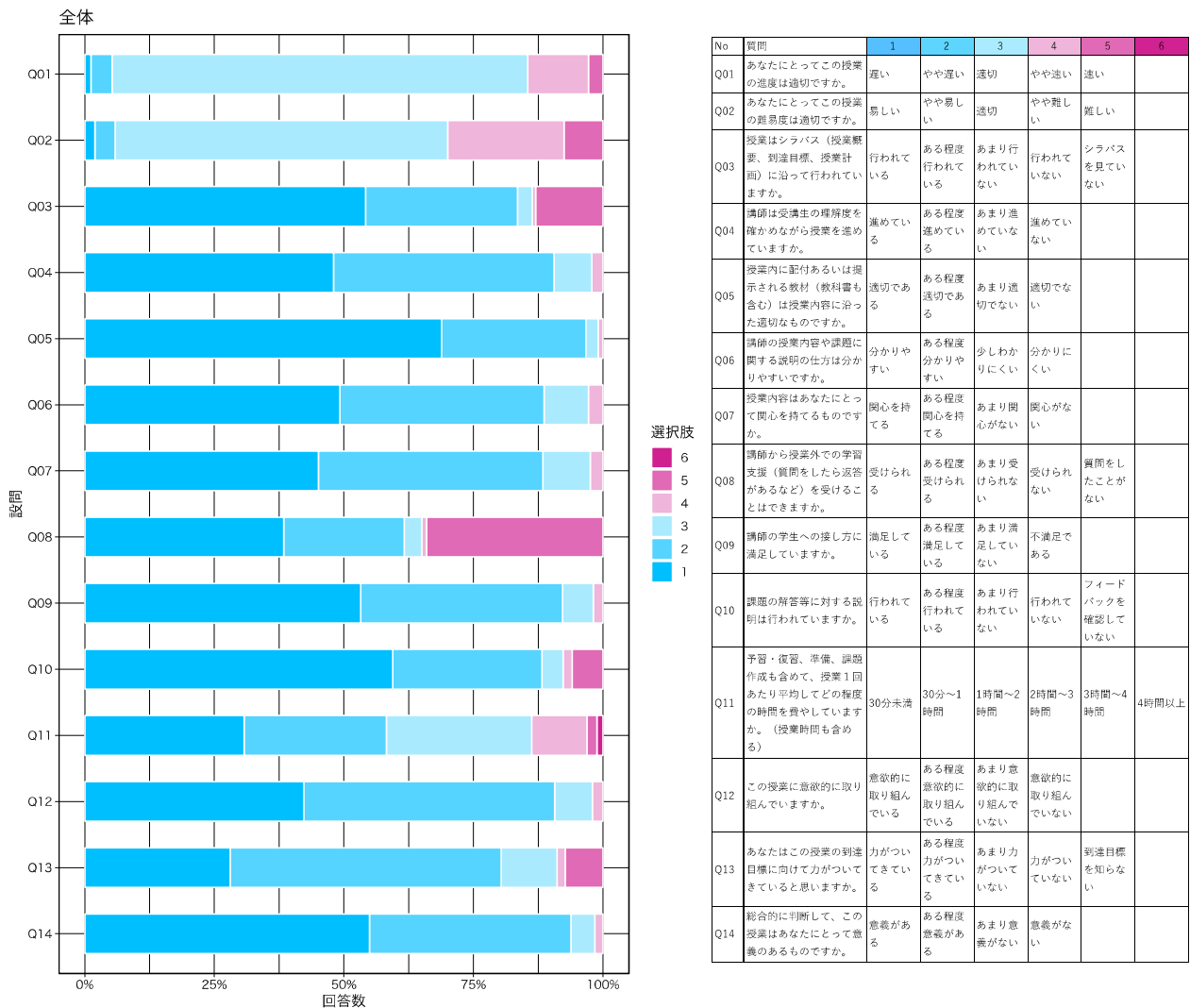
表 3：アンケート回答状況（学部別） ※TALES のコースに学生ロールで登録されていたユーザー

	開講学部	講義数	受講生※	回答者数	回答率	2022 年度 前期回答率
講義開講学部	文学部	39	1531	446	29.1%	28.9%
	経済経営学部	38	2518	682	27.1%	44.3%
	法学部	19	931	272	29.2%	46.0%
	心理学部	23	1648	955	57.9%	61.1%
	現代生活学部	60	2943	1437	48.8%	54.7%
	教育学部	35	2169	806	37.2%	48.6%
	大学共通	53	3120	994	31.9%	41.8%
教員所属学部	文学部	13	843	329	39.0%	31.8%
	経済経営学部	18	1215	367	30.2%	46.6%
	法学部	13	824	275	33.4%	47.0%
	心理学部	12	921	568	61.7%	71.2%
	現代生活学部	20	1247	778	62.4%	68.6%
	教育学部	12	753	259	34.4%	52.1%
	全学教育開発センター	15	705	339	48.1%	57.2%
	非常勤	164	8352	2677	32.1%	39.4%

アンケート集計結果

(1) 全学部

アンケート回答を全学部について集計した結果を図1に示す。



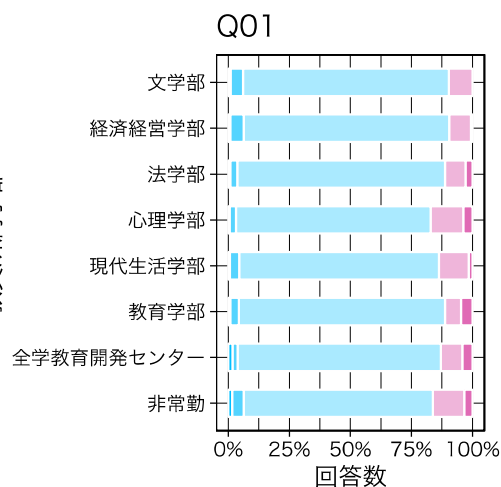
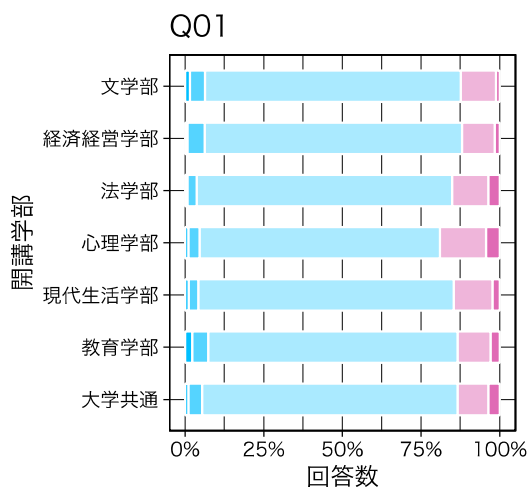
	1	2	3	4	5	6
Q01	1.2%	4.1%	80.2%	11.7%	2.8%	0.0%
Q02	2.0%	3.9%	64.2%	22.4%	7.6%	0.0%
Q03	54.2%	29.4%	2.9%	0.6%	13.0%	0.0%
Q04	48.0%	42.5%	7.3%	2.2%	0.0%	0.0%
Q05	68.9%	27.9%	2.3%	0.9%	0.0%	0.0%
Q06	49.2%	39.4%	8.5%	2.8%	0.0%	0.0%
Q07	45.1%	43.3%	9.2%	2.5%	0.0%	0.0%
Q08	38.4%	23.3%	3.4%	0.9%	34.0%	0.0%
Q09	53.3%	38.9%	6.0%	1.9%	0.0%	0.0%
Q10	59.5%	28.7%	4.1%	1.7%	6.0%	0.0%
Q11	30.8%	27.4%	28.0%	10.7%	1.9%	1.2%
Q12	42.3%	48.4%	7.3%	2.1%	0.0%	0.0%
Q13	28.1%	52.3%	10.8%	1.6%	7.3%	0.0%
Q14	54.9%	38.9%	4.6%	1.6%	0.0%	0.0%

図1:全学部アンケート集計結果

(2) 学部別アンケート結果

以下に、設問毎のアンケート集計結果を開講学部毎、教員所属学部毎に示す。

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	

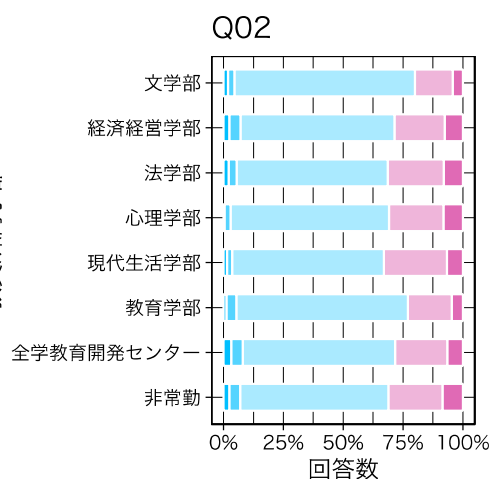
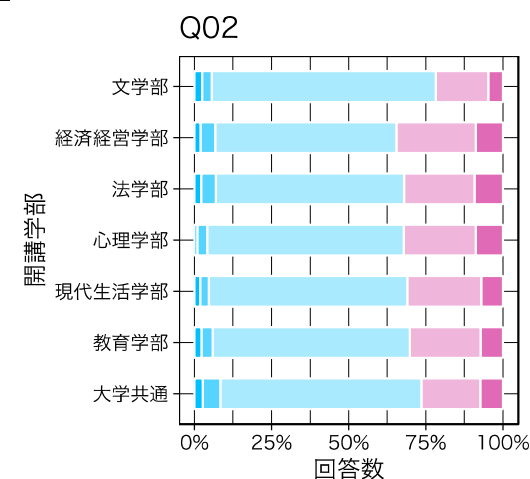


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	1.6%	4.7%	81.4%	11.2%	1.1%	0.0%
経済経営学部	0.7%	5.4%	81.8%	10.4%	1.6%	0.0%
法学部	0.7%	2.9%	81.3%	11.4%	3.7%	0.0%
心理学部	1.0%	3.6%	76.4%	14.7%	4.3%	0.0%
現代生活学部	1.1%	3.1%	81.2%	12.4%	2.2%	0.0%
教育学部	2.2%	5.1%	79.3%	10.6%	2.9%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	1.0%	4.4%	81.2%	9.8%	3.6%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	0.9%	5.2%	84.2%	9.7%	0.0%	0.0%
経済経営学部	0.8%	5.4%	84.2%	9.0%	0.5%	0.0%
法学部	0.7%	2.9%	85.1%	8.4%	2.9%	0.0%
心理学部	0.5%	2.6%	79.8%	13.4%	3.7%	0.0%
現代生活学部	0.6%	3.7%	81.9%	12.2%	1.5%	0.0%
教育学部	0.8%	3.5%	84.6%	6.6%	4.6%	0.0%
全学教育開発センター	1.8%	2.1%	83.2%	8.8%	4.1%	0.0%
非常勤	1.6%	4.6%	77.5%	12.9%	3.3%	0.0%

図2：Q1のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q02	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	



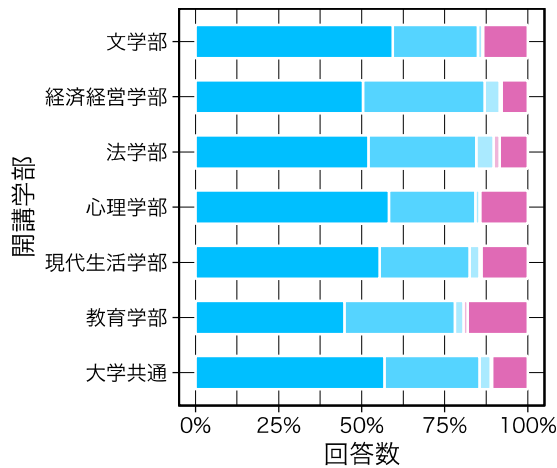
開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	2.5%	3.1%	72.6%	17.0%	4.7%	0.0%
経済経営学部	1.9%	4.8%	58.7%	25.7%	8.8%	0.0%
法学部	2.2%	4.8%	61.0%	22.8%	9.2%	0.0%
心理学部	0.9%	3.1%	63.8%	23.4%	8.8%	0.0%
現代生活学部	1.9%	2.8%	64.4%	23.9%	7.0%	0.0%
教育学部	2.2%	3.6%	64.0%	23.0%	7.2%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	2.7%	5.7%	65.2%	19.0%	7.3%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	1.8%	2.7%	75.4%	15.8%	4.3%	0.0%
経済経営学部	2.5%	4.6%	64.3%	21.0%	7.6%	0.0%
法学部	2.2%	3.3%	63.1%	23.4%	8.0%	0.0%
心理学部	0.4%	2.6%	66.2%	22.7%	8.1%	0.0%
現代生活学部	1.4%	2.2%	63.4%	26.4%	6.6%	0.0%
教育学部	1.2%	4.3%	71.7%	18.2%	4.7%	0.0%
全学教育開発センター	3.2%	4.7%	63.7%	21.8%	6.5%	0.0%
非常勤	2.4%	4.6%	62.0%	22.6%	8.5%	0.0%

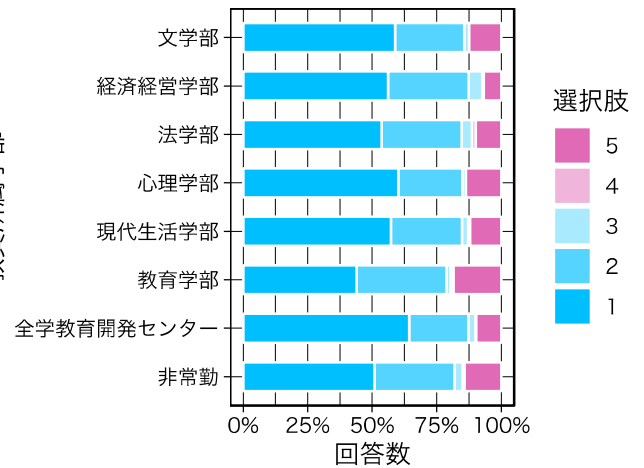
図3：Q2のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q03	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	

Q03



Q03



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	59.3%	25.6%	1.3%	0.2%	13.5%	0.0%
経済経営学部	50.4%	36.5%	4.5%	0.6%	7.9%	0.0%
法学部	52.0%	32.5%	5.2%	1.8%	8.5%	0.0%
心理学部	58.2%	26.0%	1.3%	0.2%	14.4%	0.0%
現代生活学部	55.4%	27.1%	3.0%	0.6%	14.0%	0.0%
教育学部	44.8%	33.3%	2.6%	1.2%	18.1%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	56.9%	28.6%	3.3%	0.4%	10.8%	0.0%
非常勤						

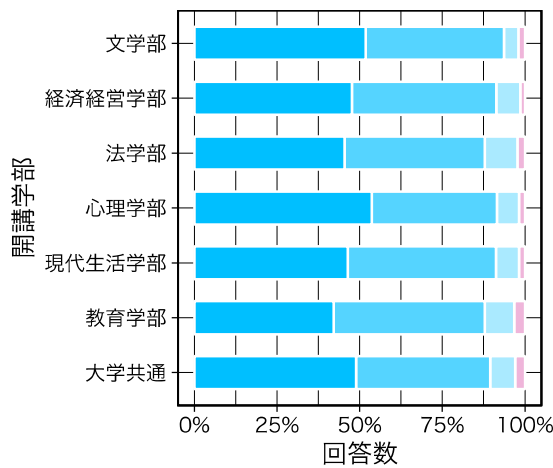
教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	58.8%	26.8%	1.8%	0.0%	12.5%	0.0%
経済経営学部	56.1%	31.3%	5.2%	0.5%	6.8%	0.0%
法学部	53.6%	31.0%	4.0%	1.5%	9.9%	0.0%
心理学部	60.0%	24.8%	1.4%	0.0%	13.7%	0.0%
現代生活学部	57.3%	27.5%	2.3%	0.8%	12.1%	0.0%
教育学部	44.0%	34.7%	1.5%	1.2%	18.5%	0.0%
全学教育開発センター	64.3%	23.0%	2.7%	0.3%	9.7%	0.0%
非常勤	50.9%	31.0%	3.2%	0.7%	14.2%	0.0%

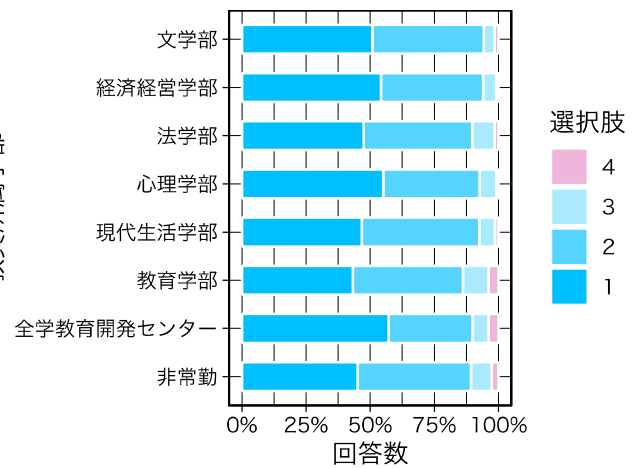
図4：Q3のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q04	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない		

Q04



Q04



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	51.8%	41.9%	4.3%	2.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	47.7%	43.7%	7.2%	1.5%	0.0%	0.0%
法学部	45.4%	42.4%	10.0%	2.2%	0.0%	0.0%
心理学部	53.6%	37.9%	6.7%	1.8%	0.0%	0.0%
現代生活学部	46.4%	44.9%	7.0%	1.7%	0.0%	0.0%
教育学部	42.2%	45.7%	8.9%	3.2%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	48.9%	40.6%	7.6%	2.9%	0.0%	0.0%
非常勤						

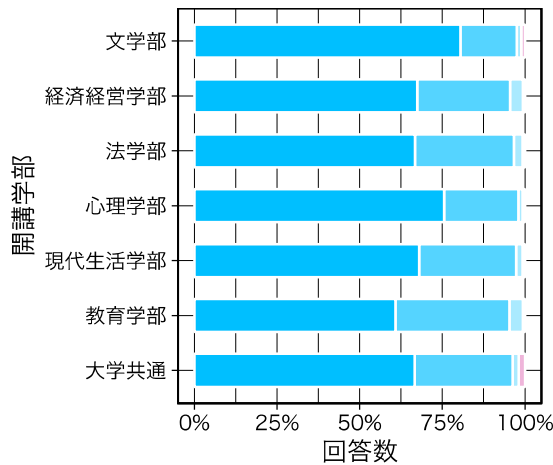
教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	50.8%	43.4%	4.3%	1.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	54.2%	39.8%	5.2%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	47.4%	42.3%	8.8%	1.5%	0.0%	0.0%
心理学部	55.1%	37.5%	6.5%	0.9%	0.0%	0.0%
現代生活学部	46.7%	45.8%	6.2%	1.3%	0.0%	0.0%
教育学部	43.2%	42.9%	10.0%	3.9%	0.0%	0.0%
全学教育開発センター	57.2%	32.7%	6.2%	3.8%	0.0%	0.0%
非常勤	45.0%	44.2%	8.1%	2.7%	0.0%	0.0%

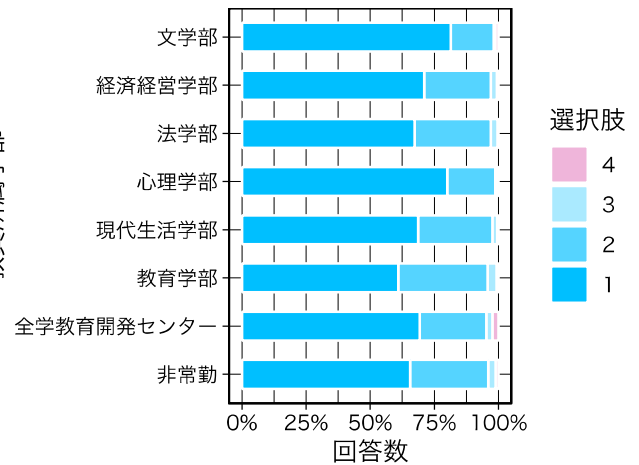
図5：Q4のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q05	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない		

Q05



Q05



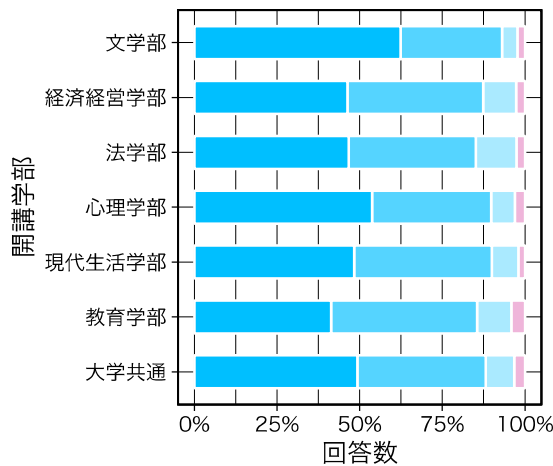
開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	80.4%	17.1%	1.3%	1.1%	0.0%	0.0%
経済経営学部	67.4%	28.0%	4.0%	0.6%	0.0%	0.0%
法学部	66.7%	30.0%	2.6%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	75.6%	22.5%	1.3%	0.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	68.0%	29.4%	2.0%	0.7%	0.0%	0.0%
教育学部	60.8%	34.5%	4.1%	0.6%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	66.6%	29.7%	1.8%	1.9%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	81.4%	16.8%	0.6%	1.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	71.1%	25.9%	2.5%	0.5%	0.0%	0.0%
法学部	67.3%	29.8%	2.6%	0.4%	0.0%	0.0%
心理学部	80.1%	18.7%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	68.7%	29.0%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%
教育学部	61.0%	34.7%	3.5%	0.8%	0.0%	0.0%
全学教育開発センター	69.3%	26.0%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%
非常勤	65.5%	30.5%	2.9%	1.1%	0.0%	0.0%

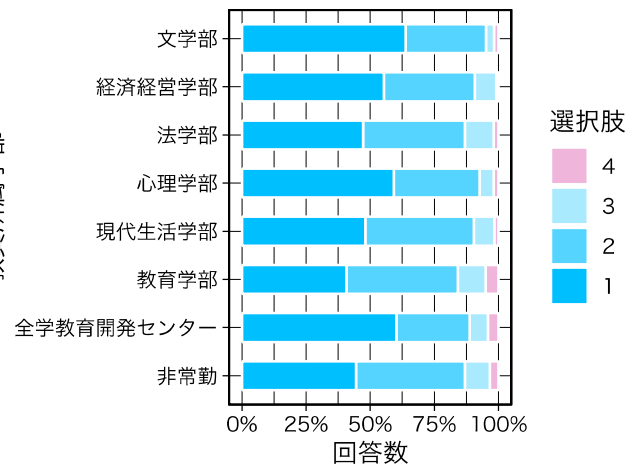
図6：Q5のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q06	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	わかりにくい		

Q06



Q06



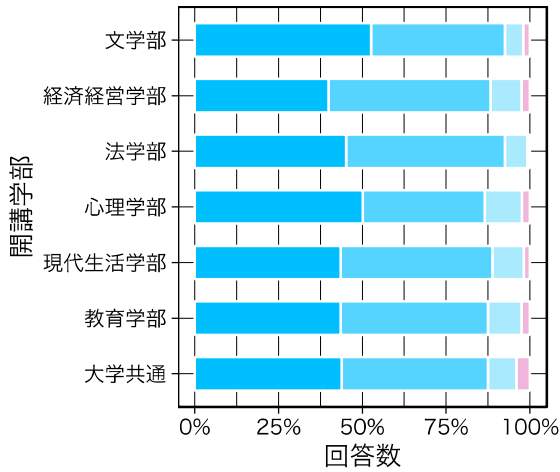
開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	62.3%	30.7%	4.7%	2.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	46.3%	41.1%	10.0%	2.6%	0.0%	0.0%
法学部	46.7%	38.5%	12.2%	2.6%	0.0%	0.0%
心理学部	53.7%	36.0%	7.2%	3.0%	0.0%	0.0%
現代生活学部	48.3%	41.6%	8.1%	2.0%	0.0%	0.0%
教育学部	41.3%	44.2%	10.3%	4.1%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	49.3%	38.8%	8.7%	3.2%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	63.8%	31.3%	3.0%	1.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	55.3%	35.4%	8.4%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	47.3%	39.6%	11.4%	1.8%	0.0%	0.0%
心理学部	59.2%	33.4%	5.5%	1.9%	0.0%	0.0%
現代生活学部	48.1%	42.3%	7.9%	1.7%	0.0%	0.0%
教育学部	40.7%	43.4%	10.9%	5.0%	0.0%	0.0%
全学教育開発センター	60.2%	28.6%	7.1%	4.1%	0.0%	0.0%
非常勤	44.4%	42.4%	9.7%	3.4%	0.0%	0.0%

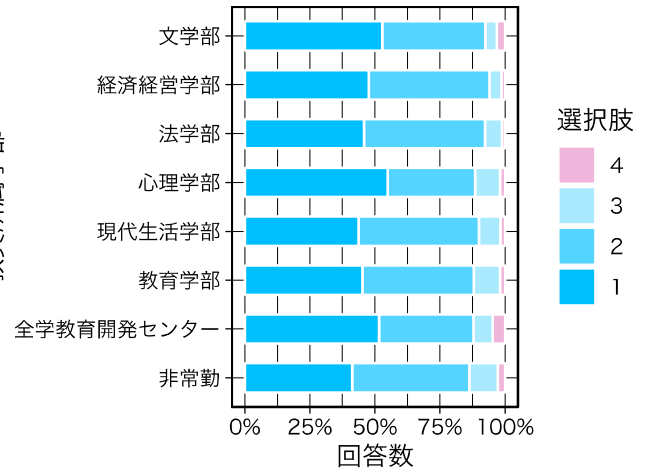
図7：Q6のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q07	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない		

Q07



Q07



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	52.6%	40.0%	5.4%	2.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	39.9%	48.4%	9.3%	2.5%	0.0%	0.0%
法学部	45.2%	47.4%	6.7%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	50.1%	36.4%	11.1%	2.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	43.6%	45.2%	9.3%	1.9%	0.0%	0.0%
教育学部	43.5%	43.9%	10.0%	2.5%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	43.8%	43.6%	8.6%	4.0%	0.0%	0.0%
非常勤						

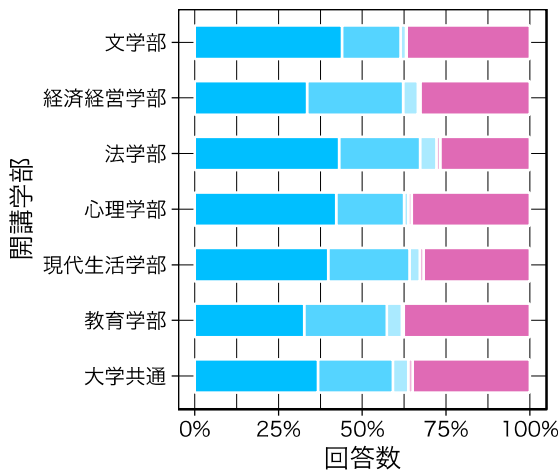
教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	52.7%	39.6%	4.6%	3.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	47.7%	46.3%	4.6%	1.4%	0.0%	0.0%
法学部	45.8%	46.5%	6.6%	1.1%	0.0%	0.0%
心理学部	54.9%	33.7%	9.5%	1.9%	0.0%	0.0%
現代生活学部	43.7%	46.3%	8.2%	1.8%	0.0%	0.0%
教育学部	45.2%	42.9%	10.0%	1.9%	0.0%	0.0%
全学教育開発センター	51.6%	36.3%	7.4%	4.7%	0.0%	0.0%
非常勤	41.2%	45.1%	10.9%	2.8%	0.0%	0.0%

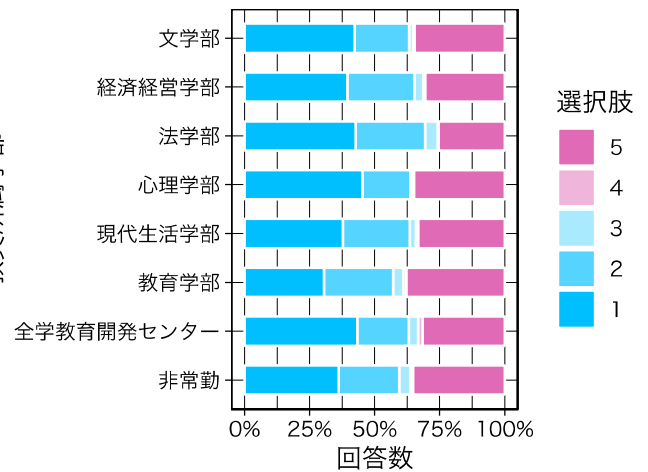
図8：Q7のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q08	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	

Q08



Q08



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	43.9%	17.5%	1.6%	0.2%	36.8%	0.0%
経済経営学部	33.6%	28.6%	4.4%	0.7%	32.7%	0.0%
法学部	43.1%	24.2%	4.8%	1.1%	26.8%	0.0%
心理学部	42.2%	20.3%	1.3%	1.0%	35.2%	0.0%
現代生活学部	39.8%	24.2%	3.1%	1.1%	31.8%	0.0%
教育学部	32.6%	24.7%	4.5%	0.6%	37.6%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	36.8%	22.4%	4.6%	1.3%	34.9%	0.0%
非常勤						

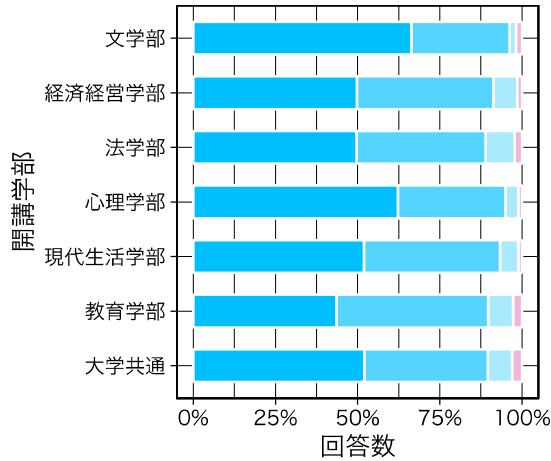
教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	42.2%	21.0%	1.5%	0.6%	34.7%	0.0%
経済経営学部	39.5%	25.9%	3.3%	0.8%	30.5%	0.0%
法学部	42.6%	26.8%	4.8%	0.4%	25.4%	0.0%
心理学部	45.2%	18.5%	0.5%	0.9%	34.9%	0.0%
現代生活学部	37.8%	25.6%	2.4%	0.8%	33.3%	0.0%
教育学部	30.5%	26.6%	3.9%	1.2%	37.8%	0.0%
全学教育開発センター	43.4%	19.8%	3.5%	1.8%	31.6%	0.0%
非常勤	36.1%	23.3%	4.3%	1.0%	35.3%	0.0%

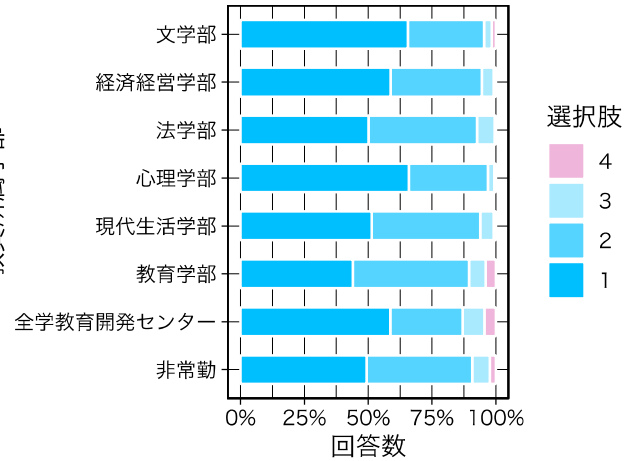
図9：Q8のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q09	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である		

Q09



Q09



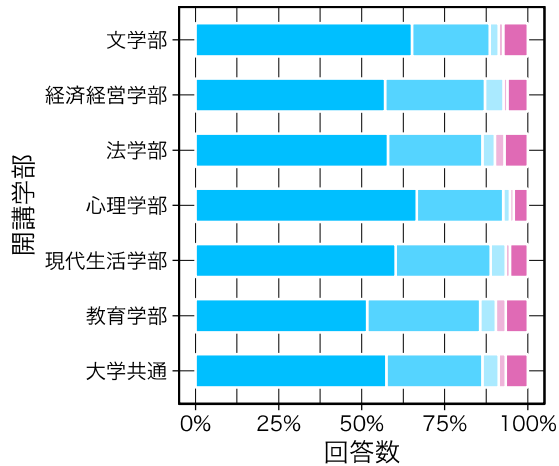
開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	66.3%	29.9%	2.0%	1.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	49.8%	41.4%	7.3%	1.5%	0.0%	0.0%
法学部	49.6%	39.3%	8.9%	2.2%	0.0%	0.0%
心理学部	62.2%	32.8%	3.9%	1.2%	0.0%	0.0%
現代生活学部	51.9%	41.4%	5.5%	1.2%	0.0%	0.0%
教育学部	43.5%	46.2%	7.6%	2.7%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	52.1%	37.5%	7.4%	3.0%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	65.5%	29.9%	3.0%	1.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	58.9%	35.7%	4.6%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	50.2%	42.5%	7.0%	0.4%	0.0%	0.0%
心理学部	66.0%	31.0%	2.5%	0.5%	0.0%	0.0%
現代生活学部	51.4%	42.6%	5.3%	0.8%	0.0%	0.0%
教育学部	44.0%	45.6%	6.6%	3.9%	0.0%	0.0%
全学教育開発センター	58.7%	28.3%	8.6%	4.4%	0.0%	0.0%
非常勤	49.3%	41.4%	7.0%	2.3%	0.0%	0.0%

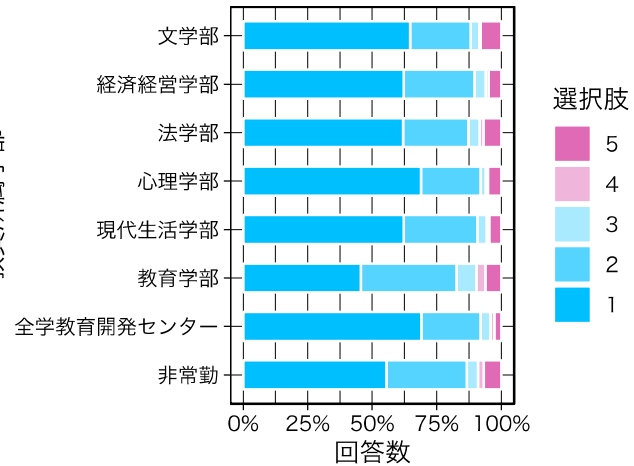
図 10 : Q9 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q10	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	

Q10



Q10



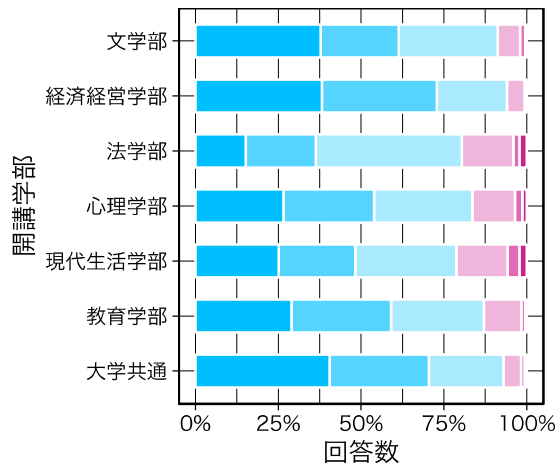
開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	65.2%	23.4%	2.7%	1.3%	7.4%	0.0%
経済経営学部	57.0%	30.1%	5.6%	1.2%	6.2%	0.0%
法学部	57.9%	28.4%	3.7%	3.0%	7.0%	0.0%
心理学部	66.5%	26.0%	2.0%	1.2%	4.3%	0.0%
現代生活学部	60.2%	28.6%	4.5%	1.3%	5.4%	0.0%
教育学部	51.7%	33.9%	4.7%	3.0%	6.7%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	57.4%	28.9%	4.9%	2.1%	6.6%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	64.6%	23.5%	3.4%	0.6%	7.9%	0.0%
経済経営学部	62.1%	27.5%	4.4%	1.1%	4.9%	0.0%
法学部	62.0%	25.2%	4.4%	1.5%	6.9%	0.0%
心理学部	68.9%	23.1%	1.9%	0.9%	5.1%	0.0%
現代生活学部	62.2%	28.6%	3.6%	1.0%	4.6%	0.0%
教育学部	45.6%	37.1%	7.7%	3.5%	6.2%	0.0%
全学教育開発センター	69.0%	23.0%	3.8%	1.2%	2.7%	0.0%
非常勤	55.5%	31.1%	4.5%	2.2%	6.7%	0.0%

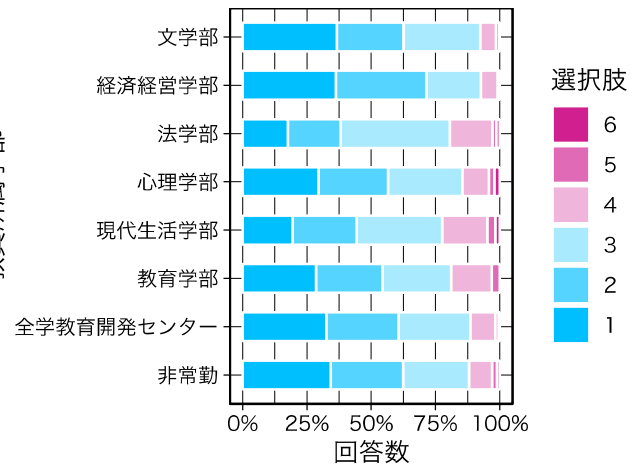
図 11 : Q10 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q11	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。(授業時間も含める)	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上

Q11



Q11



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	37.8%	23.6%	29.9%	6.7%	1.6%	0.4%
経済経営学部	38.1%	34.8%	21.1%	5.3%	0.3%	0.4%
法学部	15.2%	21.1%	44.1%	15.6%	1.9%	2.2%
心理学部	26.6%	27.3%	29.6%	12.9%	2.2%	1.4%
現代生活学部	25.1%	23.1%	30.4%	15.5%	3.6%	2.2%
教育学部	29.0%	30.1%	28.0%	11.3%	1.1%	0.5%
大学共通/全学教育開発センター	40.5%	29.9%	22.6%	5.3%	1.0%	0.7%
非常勤						

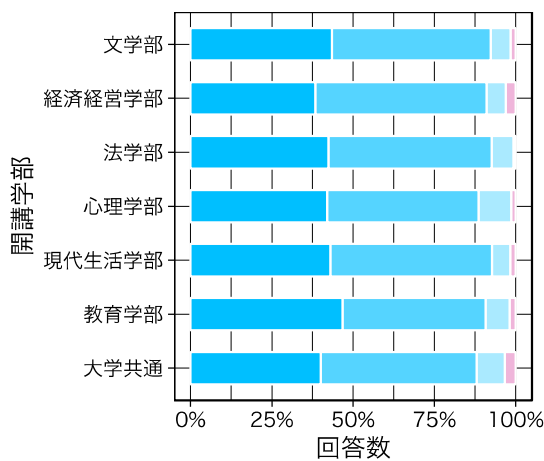
教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	36.6%	25.9%	29.9%	6.1%	1.2%	0.3%
経済経営学部	36.2%	35.1%	21.3%	6.5%	0.5%	0.3%
法学部	17.6%	20.5%	42.5%	16.5%	1.5%	1.5%
心理学部	29.6%	26.9%	28.9%	10.4%	2.1%	2.1%
現代生活学部	19.4%	24.8%	33.3%	17.5%	3.1%	1.8%
教育学部	28.6%	25.9%	26.6%	15.8%	3.1%	0.0%
全学教育開発センター	32.5%	28.1%	27.8%	9.8%	1.2%	0.6%
非常勤	34.2%	28.1%	25.7%	9.0%	1.8%	1.2%

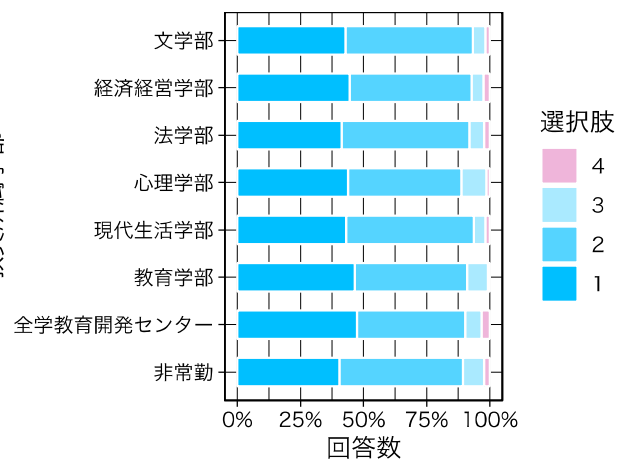
図 12 : Q11 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q12	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない		

Q12



Q12



開講学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	43.5%	48.9%	6.1%	1.6%	0.0%	0.0%
経済経営学部	38.3%	52.7%	5.9%	3.1%	0.0%	0.0%
法学部	42.4%	50.2%	6.6%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	42.0%	46.6%	10.1%	1.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	43.0%	49.7%	5.6%	1.7%	0.0%	0.0%
教育学部	46.7%	44.1%	7.3%	1.9%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	40.0%	48.0%	8.7%	3.3%	0.0%	0.0%
非常勤						

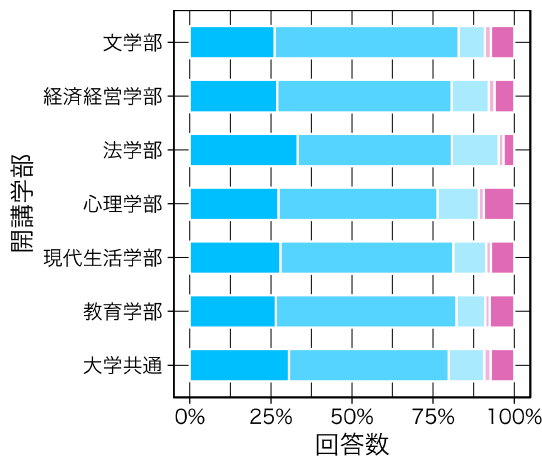
教員所属学部

	1	2	3	4	5	6
文学部	42.9%	50.5%	4.9%	1.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	44.5%	48.4%	4.6%	2.5%	0.0%	0.0%
法学部	41.2%	50.7%	5.8%	2.2%	0.0%	0.0%
心理学部	43.9%	44.8%	9.9%	1.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	43.0%	50.6%	4.5%	1.8%	0.0%	0.0%
教育学部	46.5%	44.5%	8.2%	0.8%	0.0%	0.0%
全学教育開発センター	47.3%	42.9%	6.5%	3.3%	0.0%	0.0%
非常勤	40.4%	49.1%	8.4%	2.2%	0.0%	0.0%

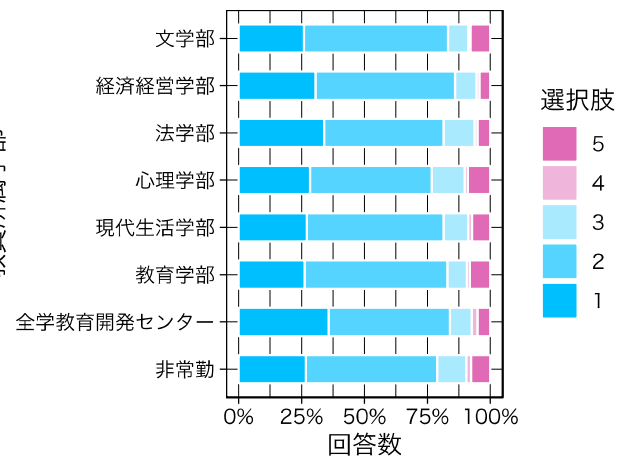
図 13 : Q12 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q13	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	

Q13



Q13



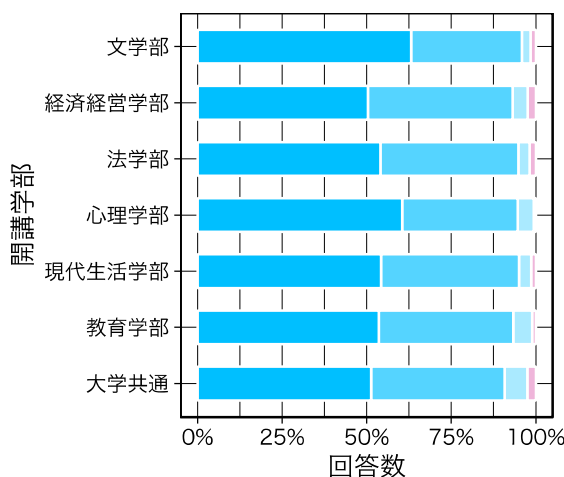
開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	26.1%	56.9%	8.1%	1.8%	7.2%	0.0%
経済経営学部	26.9%	53.9%	11.5%	1.8%	6.0%	0.0%
法学部	33.2%	47.6%	14.4%	1.5%	3.3%	0.0%
心理学部	27.3%	49.0%	12.8%	1.6%	9.3%	0.0%
現代生活学部	27.9%	53.3%	10.3%	1.5%	7.1%	0.0%
教育学部	26.5%	55.7%	8.8%	1.4%	7.6%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	30.5%	49.3%	10.9%	1.9%	7.3%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	25.9%	57.3%	7.9%	0.9%	7.9%	0.0%
経済経営学部	30.6%	55.5%	8.5%	1.1%	4.4%	0.0%
法学部	33.9%	47.4%	12.4%	1.1%	5.1%	0.0%
心理学部	28.3%	48.4%	13.0%	1.2%	9.0%	0.0%
現代生活学部	27.2%	54.2%	9.9%	1.5%	7.2%	0.0%
教育学部	26.3%	56.8%	7.7%	1.2%	8.1%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	35.8%	48.2%	8.6%	2.4%	5.0%	0.0%
非常勤	26.8%	52.1%	11.6%	1.9%	7.7%	0.0%

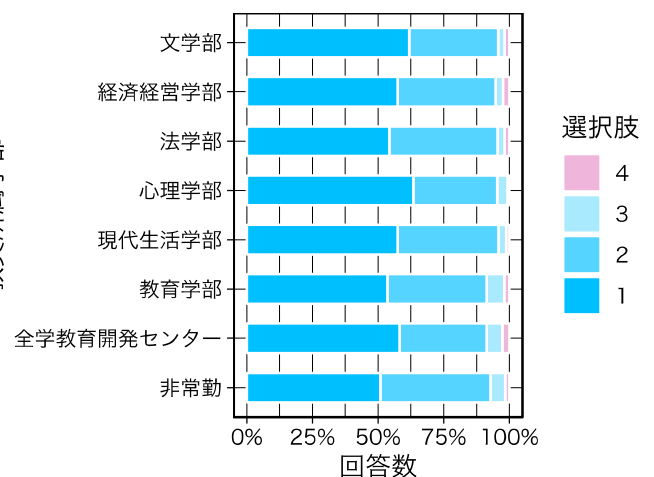
図 14 : Q13 のアンケート集計

No	質問	1	2	3	4	5	6
Q14	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない		

Q14



Q14



開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	63.1%	32.8%	2.5%	1.6%	0.0%	0.0%
経済経営学部	50.4%	42.8%	4.5%	2.4%	0.0%	0.0%
法学部	54.1%	40.7%	3.3%	1.9%	0.0%	0.0%
心理学部	60.5%	34.1%	4.7%	0.6%	0.0%	0.0%
現代生活学部	54.3%	40.7%	3.6%	1.4%	0.0%	0.0%
教育学部	53.6%	39.8%	5.5%	1.1%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	51.3%	39.5%	6.7%	2.5%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	61.8%	33.8%	2.5%	1.8%	0.0%	0.0%
経済経営学部	57.5%	37.3%	2.8%	2.5%	0.0%	0.0%
法学部	54.2%	41.3%	2.6%	1.8%	0.0%	0.0%
心理学部	63.4%	32.0%	3.9%	0.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	57.4%	38.4%	3.0%	1.2%	0.0%	0.0%
教育学部	53.5%	37.9%	6.6%	2.0%	0.0%	0.0%
大学共通/全学教育開発センター	58.2%	33.2%	5.9%	2.7%	0.0%	0.0%
非常勤	51.0%	41.9%	5.6%	1.6%	0.0%	0.0%

図 15 : Q14 のアンケート集計

(付録) アンケート質問内容

アンケート質問内容を表 4 に示す。

表 4 : 2022 年度後期授業アンケート質問内容

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない		
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない		
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい		
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない		
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である		
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしますか。（授業時間も含める）	30 分未満	30 分～1 時間	1 時間～2 時間	2 時間～3 時間	3 時間～4 時間	4 時間以上
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない		
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない		

2. 授業改善アンケートの結果のフィードバックについて

(1) 担当教員へのフィードバック

アンケート結果は、TALES 上で自動集計されたものを各自確認いただくこととし、以下の依頼をした。なお、意見聴取シートの提出率は、前期 58%（専任教員 89%）・後期 81%（専任教員 97%）であった。

- 集計結果および学生からの意見に対して、できるだけ講義中に説明等を行うとともに、今後の授業改善の一助とすること。
- 意見聴取シート（「結果の予想と実際の比較」「結果を踏まえての授業改善方法」「先生方が授業で工夫されている点」「授業運営で困っている点」）を提出すること。
⇒「結果を踏まえての授業改善方法」は、原文のまま学内サーバーにて教職員及び学生に公開する。
⇒「先生方が授業で工夫されている点」については、全学教育開発センターで検討の上、「ティーチングティップス集」として学内サーバーにて全教員に公開する。

(2) 学長、副学長、各学部長、全学教育開発センター長へのフィードバック

①アンケート対象科目全体の集計結果、②アンケート対象科目の開講所属別集計結果、③専任教員担当科目についての教員所属別集計結果を、学長、副学長、各学部長および全学教育開発センター長に通知した。（①・②・③を、専任教職員が参照できる学内サーバーに収納した。）また、各学部長および全学教育開発センター長に対しては、本アンケートの実効性を高めるために以下の依頼をした。

- 本アンケートの結果を基に、学部の専任教員（任期制を含む）による意見交換会（学部内 F D）を行い、取りまとめた結果を全学教育開発センターに報告すること。

(3) 学生へのフィードバック

担当教員が提出した意見聴取シートのうち、「結果を踏まえての授業改善方法」の一覧を、学生が参照できる学内サーバーに収納した。

(4) FD 推進委員会での報告・検討

FD 推進委員会にて以下の報告・検討をおこなった。

- 授業改善アンケートの実施期間、方法等についての検討
- アンケート質問項目、意見聴取シート記載項目変更の報告
- アンケート実施状況、意見聴取シート提出状況の報告
- 「ティーチング・ティップス集」の検討

2022年度 ティーチング・ティップス集

- (1) 2022年度の授業改善アンケートの結果を受けて先生方から提出いただいた意見聴取シートの「授業において工夫している点」の中から、多くの先生方に参考になるとと思われるものをピックアップしました。
- (2) その上で、これまでの内容を一部改訂し、今回新たにピックアップされたものに*と表示し加えております。
- (3) 同類の工夫が複数の項目に入っている場合がありますが、いずれにも該当するとの判断から、敢えてそのようにしております。

1. 授業で気をつけていること

- ・1年生は大学に慣れておらず、顔をあわせる機会も少ないことから、学生との距離については十分に配慮する。
- ・授業を聞く前と後とでは知識量や興味が変わるようにしている。
- ・常に最新の情報を収集するとともに、授業の構造が具体的に理解できるように授業構成の見える化を心がけている。
- ・理論と実践の融合を図ることを大事にしている。
- ・教科内容をできるだけわかりやすく説明すると同時に教科の意義を考察できるような問いかけをしている。
- ・何のための実験操作か？その操作でどんなことが起こるのか？などといったことを、限られた時間の中ではあるが、学生一人ひとりがイメージできるような授業を実践する。
- ・作業の繰り返しを行い何度も体験ができるように工夫する。
- ・出来るだけ多くの学生に発表の機会を与えようとする。
- ・クラスメイトがどのような考えを持ち課題を進めているのか？ということクラス全体で共有（可視化）しながら、時にそれらをピアで（仲間同士で）評価し、課題（授業）全体を進めていくよう工夫する。すなわち、縦（教員）だけでなく、横（仲間）からの刺激を受けられるように授業構成する。
- * 演習中にわからない部分を友人に尋ねて解決するケースはお互いの学びあいのために良いことではあるが、間違いを教えあうこともある。困っている様子の学生に対して、演習時の巡回中により一層声がけを行い、学生からの説明を傾聴しつつ解決へのアドバイスに努める。
- ・可能な限り学生の声聞いて講義に反映させる。
- ・学生が、課題へどのように取り組んでいるのかを確認しつつ、次の授業の構想を立てるようにする。
- * 毎回の授業課題で書かせている「授業内容の要約」から、授業の理解度を確認し、進捗スピードなど注意する。

2. 講義方法

- * 対面授業が久々に再開されたことから、これまでの対面授業よりもややゆっくり進めている。
- * 実習のスピードが早く感じる学生さんもいるようなので、操作を見ながら作業するのではなく、一旦操作を見せた後で一緒に操作していく、という流れにすることで、全体を把握しながら操作しやすくなる。
- * 対面授業だけでは難しいとのことなので、この意見を受けて、講義の動画などで復習できるようにしたり、教

科書のどこを参照すればよいかなど、より丁寧に説明したりと、理解しやすい工夫をしている。

- ・はじめに、学生の生活に身近な話題を、時には映像を交えながら説明し、その上で抽象度の高い内容へと移るということになるべく心掛けている。段階を踏むことで、授業内容に対する「とっつきにくさ」が多少和らぎ、それが授業への集中に結びついているようである。
- ・授業内容に入る前に、自分自身の体験を振り返ってそれらを書き出してもらっている。自分の体験や考えたことをもとに授業を聞くことで、理論と具体的な場面が関連づき、理解が深まるように工夫している。
- ・授業の導入時に、授業に関連する内容という条件つきで、最近関心を持った新聞記事をクラス全体に発表（個人プレゼンテーション）させ、これから学習する良い雰囲気づくりに努めている。
- ・授業内容が日常生活にも役立つように例を挙げたり、質問紙などを使って自己分析などを行っている。
- ・理論値と実践知の融合が実感できる学びが重要である。理論で習得した知識との関連を図りながら、学生に学校現場の実際に即した授業づくりを経験させることを重視している。
- ・授業形態（対面・遠隔）にかかわらず、毎回の授業で学生に授業の振り返り等を提出してもらい、その内容を次回に的確にフィードバックする。
- ・テーマごとにその授業の概要を示し、何を学んでほしいのかを解説する。
- ・経営学で歴史の講義をする際に、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか、その意義を考えてもらえるようにしている。過去と現代との接点に触れ、身近で具体的な事例を用いる等、現代的な意義を意識した内容を心掛ける。
- ・学習意欲のない学生に向けて、今、勉強していることが将来どのようなことに役立つのかを説明するようにしている。
- * 授業内で ICT を活用し、学生の意見等をリアルタイムに取り入れながら相互に関わる授業を復活させた。結果として、理解や力の涵養など学生にとって意義のある授業であると回答があった。
- ・90分の授業にメリハリをつけるため、およそ30分刻みで異なる作業（レクチャー、参考映像視聴、協働作業、ライティング等）を行なう形にしている。
- ・ただ聞くだけでなく、手を動かして自分で考えてもらうために、適宜ワークや板書を入れるようし、メリハリのある授業運営を目指している。
- * 学生からは配布レジюмеが不親切で、他授業のように穴抜きのレジюмеなどにしてほしいという要望があるが、これについては社会人になるのに各自でメモを取るというトレーニングもしてほしいので、変更する予定はない。
- * 高校時代に日本史を選択していたのかどうかで、知識量に大きな差があると感じている。この点を踏まえ、あまり日本史の知識が豊富でない受講生にとっても分かりやすいように、基本的な事項についても改めて説明する
- ・基礎技能を持たない学生、充分持っている学生、その混在状況の中で、そのいずれにも得るものがあるよう、考慮している。
- ・模擬面接などで、学生にロールプレイを行わせ、実際の就職に関する実演をする。そのことで、将来に向けた意気込みを高めていく。
- ・できる限り学内実習・臨地実習で活用できる技術を、実践的に利用できることを目指し、コンピュータを使った演習を取り入れながら講義している。
- ・事例を多く出すこと、現場の実態を伝えること。これらを通して経営の実際に接近するようにしている。
- ・授業の合間に、人生哲学や生き方の心得、処世術などを織り交ぜて話すと、学生が関心を持って聞いてくれる

ようになる（このような話を聞く機会は意外と少ないとのこと）。

- ・タイムリーな内容をふんだんに入れながら、臨場感ある授業を心掛ける。

3. 教材作成

- * 到達目標を明確に示し、難しい説明をなるべく平易に具体的に行う。
- * 身近な事例紹介を増やし、学生の授業内容への関心を高める。
- * 文系学部の学生にとって最低身につけておいてほしい科学の基礎知識は授業で触れながらも、可能な限り身近な事象を題材として取り上げ数式や化学反応式などを用いた説明は極力さけ、イラストや動画を活用して概念の理解に繋げる。
- ・ 講義資料は、なるべく図表、写真など視覚に訴える資料を多くし文章を少なくする。
- ・ 動画等を映写するだけでなく、実物を持参し直接手に触れてもらえるように心がけている
- ・ 国が運営しているデジタルミュージアムや公的な YouTube 番組へのリンクを提示し、受講生が良質な情報にアクセスできるようにする。
- ・ WEB 教材を活用して、個々のペースで発音、聞き取り練習ができるようにしている。
- ・ 新聞記事やニュース映像等を用いて、可能な限り最新の情報を紹介し、興味をひくようにしている。
- * 学校現場で即活用できるような実践的指導力が身につくように具体的な実践事例を踏まえて授業分析を行う。そのためにも全国大会レベルの最新の情報を積極的に収集し、提示する。
- ・ 板書時間を節約したり、画像やイラスト表示により理解を促したりするために、パワーポイントを利用している。
- ・ iPad を活用しテキストを PDF 化したものをプロジェクター提示し、説明を書き込むことによって進行中の内容をわかりやすいように説明することに取り組んでいる。
- * 毎回、授業の様子（PC のスライド挙動・音声）を録画し、TALES 上で公開していつでも閲覧できるようにするなど、復習をしやすい環境を整えている。
- ・ 欠席者がレジュメ等を入手しやすいように、TALES 上に掲載している。
- * 時代の移り変わりが早く、学生の理解度や興味の方向も一定ではないから、授業で扱うテーマについては毎期検討する。
- * 一つの学問領域の学習なので、その知識や技能の修得が「簡単」ということはあり得ないが、これからも工夫を重ねていく必要がある。
- * 美術史学の場合、「分かりやすい説明」の危険性という問題を挙げておかざるをえません。美術は（学ぶ側が能動的に）目で見て感じる事、理解することが大切で、言語に依存するかたちでの過度の「分かりやすさ」は、避けるべき事態であるからです。よりよき「分かりやすさ」、「目で見て学ぶ」心地よさのために、とくに視覚的情報の充実を、今後も心がけていく。

4. 授業時間等の配分

- ・ 90分の授業にメリハリをつけるため、およそ30分刻みで異なる作業（レクチャー、参考映像視聴、協働作業、ライティング等）を行なう形にしている。
- ・ 90分の時間を40分程度の授業 2回の中に10分の休憩を入れるつもりで授業を組み立てる。休憩もいわ

ゆる休み時間ではなく、前半部分の確認で事例問題を出題し、学生同士で相談しながら考え、少し息抜きできる時間としている。

- ・はじめに、学生の生活に身近な話題を、時には映像を交えながら説明し、その上で抽象度の高い内容へと移るということになるべく心掛けている。段階を踏むことで、授業内容に対する「とっつきにくさ」が多少和らぎ、それが授業への集中に結びついているようである。
- ・ただ聞くだけでなく、手を動かして自分で考えてもらうために、適宜ワークや板書を入れるようし、メリハリのある授業運営を目指している。
- ・学生に質問する。
- ・基本的には、講義形式としているが、なるべく DVD や画像なども活用して、ビジュアル的にわかりやすく説明をするよう心掛けている。

5. 課題の出し方

- * 学生の予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたりの平均時間をより増やすため、実験中に実験レポートの作成、特に考察の考え方を毎回指導する。
- ・対面に移行してからも、TALES を使って、資料の掲示やレポート作成をしてもらっている。授業中の質問に加えて、TALES からも質問を受け付けるようにしている。
- * 毎回の授業課題で書かせている「授業内容の要約」から、授業の理解度を確認し、進捗スピードなど注意する。
- ・授業外の学習時間を客観的に測れるように、TALES 上で予習動画の閲覧状況を確認し、練習問題の解答状況もチェックしている。
- * 子どもと本をつなぐ技術として、主に絵本の読みがたり、ブックトーク、POP 作成を体験してもらっているが、最寄りの公共図書館で児童書を借りる等の準備が必要なので、早めに授業スケジュールを認知してもらえるように注意する。
- ・難しい課題内容を頑張って勉強して報告してほしい反面、難しすぎて質問が出にくかったり、意見交換がそもそもできないなどといった事態は回避しなければならないので、参加者全員が課題内容を理解しつつ、意見交換（議論）が成立するような、身近な事例等を扱う。
- ・課題の種類を 2 つに分け、授業の日に、必ずアクセスして取り組んでもらう問題と数日かけて取り組む問題を用意する。問題の種類も、ファイルで提出するものだけでなく、様々な小テスト形式のものを用意し、学生が飽きないように工夫する。
- ・ほぼ毎回「予習課題／予習内容と同一の確認課題／予習内容を応用した実習課題」という 2 種 3 通りの課題を課し、翌週に各自の取り組み状況の講評を行う。予習課題は少しでも取り組んであれば完成度を問わず一律評価とすることを伝えている。このことが授業時間外での自習を促す仕掛けとして機能している。
- ・授業内容の予習ができるよう、翌週分の資料を 1 週早く事前配付している。
- ・演習問題をプリントで配っているが、授業内ですべての答えを解説しないようにしている。答えは調べれば分かるものであるため、「調べる」習慣を付けてもらうため。
- ・いつでも、どこでも宿題ができるよう、英語学習のアプリに掲載されている練習問題を課題にしている。
- ・外国語の授業で、スマホ対応補助教材を作成し、気軽に聞き取り・発音練習できるようにしたことで、ほぼ毎時間、授業の冒頭で行う聞き取り・発音テストに備えて、課外学習を行う学生が増えた。

6. フィードバック

- * なかなか講義の中ではそれぞれの理解を確認することが出来ないために毎回の講義課題へのコメントを通して把握できるように努めている。
- ・ 毎回、授業内容に対する受講生のコメントを読み、フィードバックの文書を作成しているが、それをできるだけ早く行い、TALES 上に提示する。課題内容を忘れないうちに、他の受講生の意見等を知ること、様々な角度から、当該テーマをより深く検討できるようにする。
- * 毎週「フィードバック」を使って、感想を書いてもらっており、それに公開の形でコメントを授業中に話しています。「感想」欄は、コミュニケーションの場としても有効と思います。
- ・ 前回の課題に対するフィードバックを必ず実施する。特優れた回答はクラス内で取り上げ、受講生の参加意欲向上に努める。
- ・ 完成度の高い課題提出物に関しては、学生本人の了解を取った上で、他の受講生の参考になるようにサンプルとして学籍番号や氏名を削除した上で TALES にアップロードする。
- ・ 発音練習の成果を毎回吹き込んで提出させ、フィードバックしている。
- ・ フィードバックを受けるタイミングにおいて、受講者間で違いが生じないよう、いつ、どのようなタイミングで、どのような方法でフィードバックを行うかについて、あらかじめ周知する。

7. 復習と小テスト

【復習】

- * 毎回、授業の様子（PC のスライド挙動・音声）を録画し、TALES 上で公開していつでも閲覧できるようにするなど、復習をしやすい環境を整えている。
- * 講義中に復習も含めて解答解説をしている。
- ・ データダイエットのために音声付き電子ブックを使用し、何回でも講義を聞けるようにした。

【小テスト】

- ・ 毎回、授業終了時にその日の内容に関する問題演習（一問一答形式）を行い、内容の確認と理解度のチェックを行っている。
- ・ 毎回、復習テストを実施し、次回の講義時に採点済の答案を返却し、間違った箇所を訂正後に再提出を求めることで学生の理解を助けるようにしている。
- ・ 毎回の小テストで授業内容の理解を確認したり、授業で扱った問題の演習をしたりしているが、択一式問題は 4～5 題にとどめ、学生の課題の負担が大きくなりすぎないように注意している。
- ・ 小テスト（確認テスト）をクイズ感覚でできるようにし、復習がしやすいようにする。
- ・ TALES を導入し、授業内で出来なかった国家試験関連問題を小テストとして用意し、各自が解答後に解説を見て復習ができるようにした。
- ・ 小テストを TALES 上で行い、復習を促すとともに、何度も受験可能な設定にしている。
- ・ 小テストは期限内なら無制限受験を可能とし、最高点を採用する。
- ・ 復習がしやすいように、X ドライブを活用して資料をデータとしても入手できるようにしている。

8. 学生参加を促す

- * コロナで三年ぶりの実講義である。学生に関心を持ってもらおうと様々な取り組みをしているが、これまでになく反応が鈍い。レポート等を見ると理解はしているが、講師とコミュニケーションが取りづらい。これまでに以上に、座学ではなく実践的かつ五感で感じれる講義をめざした。
 - グループ・アプローチの手法を取り入れた授業を展開している。学生も積極的に参加してくれ、変化を感じる。
 - クラスの雰囲気慣れてもらえるよう、前半にグループ学習等を多く取り入れお互いの関係性を作り、後半に個別作業を集中させ、個別相談の時間を多くとれるようにした。
 - 机を円の形にし、話しやすいようにしている。
 - * 授業対面に戻ったことで、授業内で Google Forms やロイロノートなど、ICT を活用し、学生の意見等をリアルタイムに取り入れながら相互に関わる授業を復活させた結果、理解や力の涵養など学生にとって意義のある授業であると回答があった。
 - Zoom の投票機能や google form によるアンケートを用いることで、講義で扱う内容に直接参加できる体験型の講義を行う。
 - * 学生間の相互の学び合いのために、課題で出た意見の紹介・フィードバック、グループワーク、発表の際の学生同士のコメント交換などの機会を授業内で確保している。
 - TALES では掲示板も設定できるので、視聴覚教材の感想や質問をそこに投稿するよう設定し、教員と学生との二者間ではなく多者間で知識を共有する。
 - * 履修人数が多いためになかなか全体での意見交流ができないので、できるだけ毎回講義の最初に前回の講義課題で出された主な意見について紹介し、その良さを説明している。
 - 小規模の演習科目では、発表者に事前にテーマを公表させ、発表者以外の学生に予習を促し、必ず全員でそのテーマについてディスカッションするようにしている。これによって学生の授業参加意欲が高まっているように思う。
 - 担当箇所を割り当て、その箇所だけでも責任を持って説明できるように準備してくるシステムを作っている。
- 語学の授業中に、極力受講生に発音させるようにしているのだが、その際、マイクを通して教室全体によく聞こえるように発音させることで、真剣に練習するようになった。・自ら調べ、まとめ、伝える能力をつけるために、初回オリエンテーション時に担当学生を決め、学生に教師役として授業を実施してもらっている。
- 演習では可能な限り 2~3 名の少人数で一つのプロジェクトに取り組みせ、内容にコミットしない学生が出ないように気を付けている。
 - チームで作業をさせて、学生一人ひとりに責任を持たせるようにしている。
 - ディスカッションが円滑に進むために、発表者には必ず「ディスカッションの種」を用意してもらう。ゼミ生同士が積極的に意見交換を行い、最後には参加者がそれぞれコメントシート（1. おもしろかったこと、2. もっと知りたいこと、3. その他応援のメッセージ）を作成する。後日、教員がチェックし、発表者に返却する。
 - 学生のプレゼンテーションが行われている際にスマートフォンで Google フォームを利用し、学生同士でプレゼンテーションの評価ができるシステムを使用している。
 - 学生が考える時間が持てるよう、話し方に「間」を取るように心がけている。
 - 演習において、発表者に対する意見・コメントを言ってもらう際、安心して意見が言えるような雰囲気を作る

ため、発言する順番は授業の最初にくじ引きで決めている。

- 回答までに○分などタイマーで時間を管理しながら、各自もしくはグループで問いに対する回答を考える時間を設けた後に、回答者を選出している。回答者の選出は、名前カードを用いて抽選にしているため、一定の緊張感があるようだ。
- ゼミにおいて、全員が発言できるような課題を設定している。
- 時間内に可能な限り全ての学生が口頭発表、チャット、発言、質問など何らかの形で参加できるように工夫する。
- 「分からない」は認めず、正誤ではなく、自分自身の頭で考えた答え（考え、感情、経験等）を必ず答えるように、答えられるような質問を用いて、できるだけ毎時間全員に問いかけ、自分の頭で考え発信する機会を設けている。
- できるだけ多くの学生を指名し、授業に参加させる。
- 講義が中心であるが、質問を多くしてなるべく学生に考えさせてから答を教えるようにしている。
- 一方的な講義にならないように、学生に質問し、挙手して発言した学生にポイントを与えている。

9. 学修レベルのアップ

- * 課題やクイズ等のフィードバックを丁寧に行い、学生の理解を促す。
- * 毎週の課題と並行して個人で設定しているテーマによる探究レポートの作成について、個別に情報提供等のサポートを行う。
- * 管理栄養士を目指す学生たちによりモチベーションが上がるように他の講義、実験、実習との関連などを意識させて基礎的な内容が将来につながっていることを認識してもらう。
- * 原論科目のため、歴史や哲学、思想に加え、現代の事象や問題等、広く深い内容を扱う授業のため、いかに「自分事」として捉え、思考するかを目標に授業を展開している。そのため、難しいと感じていると回答しながらも、意欲的に授業に取り組み、授業の到達目標に向けて力がついてきている、意義がある回答されているので、今後も、学生の状況を丁寧に把握しながら授業を継続していきたい。
- * 演習中にわからない部分を友人に尋ねて解決するケースはお互いの学びあいのために良いことではあるが、間違いを教えあうこともある。困っている様子の学生に対して、演習時の巡回中により一層声がけを行い、学生からの説明を傾聴しつつ解決へのアドバイスに努めていきたい。
- * オンライン英語学習ツール「Duolingo」「Words & Monsters」「M-Reader」を使用した授業外学習を積極的に勉強している学生がいる一方で、これらのツールでほとんど勉強していない学生もいることに気づきました。今後はこれらのツールの良さをもっと分かりやすく説明をし、時間のあるときに利用するように促していきたい。
- * ゼミ生にはゼミでこれを学んだと自信を持って言える課題を設定し、多少困難な課題にも取り組んでもらいたい。
- * 「授業の難易度」について、「やや易しい」と答えた学生が少数ではあるが居たため、少し難易度の調整を図ることが必要であると感じた。授業は「やや難しい」と回答されることが好ましいと考えている。
- * 学生からは配布レジュメが不親切で、他授業のように穴抜きのレジュメなどにしてほしいという要望があるが、これについては社会人になるのに各自でメモを取るというトレーニングもしてほしいので、変更する予

定はない。

10. 学生対応と質疑応答と学習支援

【学生対応】

- * 最近の学生は人見知りする傾向が見られるので、教員に対して質問しやすい環境づくりが大切ではないかと感じます。たとえば、それはフレンドリーな接し方であったり、堅苦しい説明ではなく砕けた説明を通じて、概念的なものをより具体的で身近な感覚から理解できるようにすることであったり、そうした工夫を今後、さらに重ねていくことが必要だと思います。そのためには、ある程度、こちらから学生に寄せたアプローチも採るべきであり、そうすることでコミュニケーションがとりやすくなり、質問したり感想を述べたりする機会を増やすことにつながるのではないかと考えます。
- * 個人的に思うこととして、もう少し学生との接点を増やすように心がけることが大切だろうと感じています。最近の学生は人見知りする傾向があり、教員と接することにやや億劫になっている印象を受けます。しかし、話してみると色々、考えていることがあって、なかなかそれが面白かったりするので、こちらから学生に歩み寄る努力も必要だと思います。
- ・ 難しい話を極限まで簡単に、ほめて伸ばす、ときに厳しく。

【質疑応答】

- * 授業以外の時間に教員のサポートが受けられないと回答した学生が約 16%おり、メールやオフィスアワーで教員とコンタクトが取れることを学生に再度リマインドすることが必要だとわかった。
- * 毎回の感想文（TALES）において質問の項目を設けている。授業内で困ったことや、練習の方法、種目のルールなど、不明点があれば次回授業の冒頭で説明を行なっている。直接質問ができない学生もいると考えられることから、今後も TALES を活用し、参加しやすい雰囲気づくりと心がけていく。
- * 質問には個人の進捗に合わせて説明している。

【学習支援】

- ・ 感想や質問を書いてもらう機会を増やし、そこでのコメントから学生が行き詰っている個所を見つけるようにして、それに対応する。

11. その他

- * 今年の授業ではコメントシートに要望などを書く学生も少ないため、少数意見を拾えていない側面がある。要望などを普段から匿名で集めるなどの方法も検討したい。

3. 授業改善アンケート結果を踏まえた各学部内FDについて

授業改善アンケートの実効性を高めるため、各学部および全学教育開発センターにおいて以下の意見交換が行われた。なお、これまで授業改善アンケート実施ごとに、その結果を踏まえたFDを学部等で実施していただいていたが、前期分のみの実施とし、後期については、実施するかどうかは学部等の判断に任せ、かつ、報告書の提出を求めないこととなった。

【前期】

文学部

2022年9月21日（水）の文学部定例教授会内で、今年度前期授業改善アンケートの集計結果をもとにFD検討会が実施された。

アンケート結果に関しては以下のような発言があった。

- ・文学部生の回答率が他学部に比べて低かった。授業時間内に回答時間を設けるなど対策を講じたい。
- ・アンケート実施時期に関して、もう少し早めの告知をお願いしたい。
- ・アンケート期間を以前のように2週間にしてほしい。

また、期授業を振り返って、以下のような意見（授業運営上の課題）が出された。

- ・昨年度までのオンライン授業を通して学生とのメールのやりとりが増えたこともあってか、「特別な課題」を出してほしいと依頼してくる学生が増えたように感じる。教員ごとに対応の違いがあり、公平性の問題がありそうだ。
- ・対面授業には参加するが（授業時間内での課題には対応する）、TALESを提出受付とする課題に対応しようとしにくい（あるいは、対応できない）学生が一定数いるようだ。単なるサボりなのか、TALESへの抵抗感からなのか・・・。
- ・メンタル面の問題（対面授業への強い不安感）を抱える学生に対して、教員側からリモートでの参加を促していいのかわかる（公平性という観点からいかなるものか）。

経済経営学部

アンケート結果に関しては以下のような発言があった。

- ・アンケート実施時期に関して、少し早めの告知をお願いしたい。
- ・対面授業をメインとしているが、TALESでの参加希望者も少数であるがいる。

- ・学生の理解具合を確認するために、小テストやクイズを適宜、実施している。教室内を見回り、学生の状況を確認している。
- ・大規模の授業の場合でも前回の授業を振り返ることで学生の理解度を確認する。（TALESなどのツール活用でやりやすくなっている）

法学部

実施日時 9月21日教授会

参加者 法学部専任教員13/13名（1名は他会議出席のため）

【実施概要】

法学部では、授業運営の教員自己点検を実施している。成績評価後に授業運営や学修成果を各教員が自己点検し、改善案等を記した報告書を教員間で共有している。今回のFDでは、この報告書共有のFDも兼ねて実施した。

【情報共有】

事前の報告書共有に加え、今回のFDでは主に復習の促し・知識の定着について、情報共有・意見交換・説明等をおこなった。

- TALES上で復習問題を準備し合格しなければ進めない設定にしている。この問題については授業内で解説している。
- 授業内で復習問題をとかせて、強制的に復習させるような授業設計にしている。
- 復習課題を出し、成績評価上も配点を多めにしている。それでも復習をしない学生はいる。
- 少人数授業では、毎回の授業で理解した内容を論述させ、これを添削している。
- 各授業の最後に早押しクイズ大会形式の復習チャレンジ問題を出題し、成績にも加味している。

【今後の改善】

各教員がそれぞれの授業内容、講義規模に応じておこなっている様々な工夫を共有した。今後、各教員がこれらの工夫を参考に授業改善に取り組んでいくことが確認された。

心理学部

実施日：：2022年7月20日（水）教授会前に学部内FDとして開催

今回の結果に基づき、今後の授業改善方法について意見交換を行った。

【授業運営について】

- ・対面授業に移行したことによって、学生によっては対面形式に若干まだ慣れてない感じが見受けられた。・授業の進行速度が、オンライン時と異なるように感じられた。

- ・授業の難易度について、資格に関係する科目は資格取得に関連するため、他の科目に比べて難易度が高いと感じる学生が比較的多い。
- ・前期に対象科目を持っていない教員については、ゼミナールを対象科目にするかどうかという議論があったが、匿名性が担保されないという点が大きく、ゼミナール運営にも支障が出るだろうということで、対象科目に入らないのが望ましいという結論となった。
- ・科目によっては、授業スライドを Zoom を用いて録画し、それを欠席者が視聴できるように配慮した。

【TALES の活用について】

- ・TALES に授業資料をアップロードしたり、一斉アナウンスとして活用した。また、小テストなど学生の理解度等を確認するためにも使用した。

【アンケートについて】

- ・TALES による授業アンケートでも自由記述回答を設けても良いのではという意見があった。
- ・質問 11 について、学生がきちんと理解せずに回答している可能性があるかもしれないという指摘があり、聞き方を変えるのが良いかもしれないという意見があった。具体的には、予習・復習などの授業 1 回あたりの平均時間について、授業時間が含まれているという言及があるにもかかわらず、非常に少ない時間を回答する学生が散見された。

現代生活学部

日時：2022 年 9 月 21 日(水)15:00~16:00(教授会前)

場所：14202 教室

出席者：辻川学部長(司会)、新宅学科長、矢部学科長 以下五十音順、敬称略

(食物栄養学科) 伊藤、岩橋、上島、佐伯、中、西田、藤原、藤村、渡邊、阿部(記録)

(居住空間デザイン学科) 大里、金谷、北澤、木村、竹山、間瀬、安井

欠席者：なし

オブザーバー：小舘

1. 全学の授業改善アンケート結果の報告(辻川学部長)

回答率が 54.7%と少ないため、信頼性には疑問として残るが、概ね他学部と同様の結果であった。授業の進行速度・難易度等が、「速い」・「難しい」という学生の割合がやや多い傾向にあった。

2. 各教員からの報告(抜粋)

<学力向上への取り組みとして>

- ・教科書がある方が学生の理解が深まりやすいので、今年度から活用した。

- ・学生自身で内容などを記入することが大切であると考えているため、授業内では資料を配布せず、記入させるように促した。しかし、TALESには資料を掲載するようにした。
- ・配布資料はイラストのみとし、学生自身が必要に応じて記入するような方法で行った。
- ・自作ノートを作成し、予習復習や国試対策につなげた。きちんと作成している学生は理解力の向上につながった。
- ・定期試験の持ち込みは、ノートのみ可能とし、学習時間につなげた。
- ・大切なところは複数回、またゆっくり伝えるようにした。
- ・「難しい」～「やや難しい」に回答した学生が多かったが、基本的に学習時間が短いからであると思い、宿題を行った。
- ・宿題を行うと理解度が高まるが、学生には負担であったかもしれない。

<改善点として>

- ・1～2名ほどネガティブな回答である学生がいたため、理由などを把握する必要があるように思える。
- ・定期試験は理解をしていないと解答できないため、未記入が多い学生がいた。
- ・自作ノートに関して、資料を貼って作成した学生などは理解力の向上につながりにくかった。
- ・「やや難しい」との回答が40%程度あったため、スライドの構成などを修正し、難しい印象を与えないように工夫する必要がある。
- ・アンケート結果では、「わかりやすい」90%の回答に対し、定期試験の結果からかけ離れているため、記憶に残るような工夫が必要である。
- ・学生によって課題に要する時間が異なり、また理解力に差が生じている。
- ・コロナ禍であるため、ディスカッションの機会を設けることが難しい。

3. 成績評価の付け方について

- ・回ごとに課題を行ったが、半数ほどの学生が単位取得に満たなかった。成績評価として、定期試験50%、小テスト50%の評価であり、厳しすぎたようにも感じる。
- ・成績評価としては、定期試験65%、小テスト20%、課題15%であり、授業初回に資料配布し説明、TALESにも掲載したが、出席や課題提出の状況などで評価されているとの感覚でいる学生がいる。学外実習や資格取得などに向けて、積極性を養っていく必要があるように感じる。認識してもらうためにも成績評価の説明を複数回行う必要がある。
- ・単位取得に満たない学生が多くなると、学生のモチベーションの低下につながる可能性がある。また、本学の学生に合わせた授業内容ではないと思われる。
- ・成績の開示を求める学生が増えてきたため、開示できるようにしておくべきである。また関連する書類は5年間保管しておくこととなっている。

教育学部

「前期授業評価アンケート」の実施状況、及びFD活動の内容について、7月20日に開催されたこども教育学科会議において報告した。その後、TALESを用いて、教育学部全専任教員から授業改善に資する目的で意見を求めた。それら意見は、教育学部全専任教員にメールで送信し、意見の共有を行った。

本報告では、それらに示されたFD活動の意見を集約し、以下に纏める。

【TALESの活用について】

- ・授業時間内にTALESを使うことを試み、フィードバックアイコンで匿名、その後、非匿名、の使い分けにより、「授業への積極的参加の指標」として使える。
- ・学生の課題や感想を学生自身がスマホで検索閲覧できるようにすることで、他者の意見や考えを取り入れ、自らの意見を再構成する機会を増やすことができた。
- ・小テストを実施することで、受講生の授業外の学習を促すとともに、授業の理解度をこまめに確認。
- ・資料はすべてTALESに入れ、配布資料に授業内で課題を書いたり、メモをとれるようなスペースを作るように工夫した。
- ・毎回の授業の振り返りを提出させ、教員のフィードバックを加えて提出全員分をTALES上で読めるようにし、学びを共有することに力を入れた。
- ・授業中には日本語 small talk と称して、4年生が採用試験に取り組む状況を伝えるよう努めた。幼保コースの学生に対しても、大変動機付けに繋がった。

【授業の展開、その他】

- ・今後のコロナの状況がどうなっても、十分な学びの場とするため、演習科目は、一つの組をa/bと分割することを、来年度以降も検討していく必要があるのではないか。
- ・「授業への積極的参加」の得点は、毎週の授業で「学んだことと感想」を翌日までに書かせ、書いた回数を点数化した（記入していない回数を減点。欠席しても、資料を見ながら書ける）。
- ・学生の書いたものを翌週授業の初めに印刷・配布。読む時間を取り、気づいたことを話し合わせた。さらに教員からは、いくつかの感想等に口頭でコメントを付した。復習にもなり、方向付けにもなる。
- ・実習等で抜けた学生には、抜けた回の授業の資料を読ませ、翌週の「学んだことと感想」を踏まえて、授業を予想させた。
- ・全体を通じ、やはり学生の主体的な活動を基盤とした授業運営が不可欠だと、あらためて感じた。
- ・授業中に日本語 small talk と称し、4年生が採用試験に取り組む状況を伝えるよう努めた。

幼保コースの学生からも動機付けに繋がった。

- ・開始時に、授業内容、時間配分を伝えることで、学生の授業への集中度を高めることを心がけた。
- ・主体的・対話的で深い学びにつながるねらいの達成のため、事前課題についての意見交流や相互評価など、学生が主役となる場面を多く設定する、等の工夫を行った。
- ・授業前半で反転型授業を取り入れると、学生の関心がより強くなることを感じた。他に、ジグソー型として、各グループの報告を結合し、120枚程度の発表となった。学生からも「手ごたえがあった」という声が上がった。
- ・「科目」によっては、大学での学び以前に、好き嫌いの気持ちが出来てしまっている科目も有る
特に教員を目指す彼らには、固定した意識を崩すことに気を配って授業をしている。

【授業の進度や難易度について】

- ・学生(から)は、適度な難易度であったと回答しているが、若干難易度が高い内容や教材のほうが、学習の幅を広げるものとなるのではないかと。
- ・講義の難易度の観点からは「大学の授業」、これを体感できるよう指導することは重要である。

※TALESの利用に関し、示された使用の工夫などさまざまな提言やアイデアは、多いに参考となると思われる。また知識・技能などの定着、集中、に向けた授業展開への取組みの工夫は、新鮮なヒントとなり得る。一方で、担当科目が違えば、その科目に潜在的に根付いている困難までは、他教科の教員は心を開けにくいことに気づかされる。学科教員が一丸となって教育目標を担って行くために、心したい意見と思う。全体像を大切に考え、FD委員会として今後につなげていきたいと考える。

全学教育開発センター

実施日：2022年7月20日（水）15：00～

実施場所：4号館中会議室 参加教員数：14名

第4回全学教育開発センター教員会議のなかで全学センター内FDを実施した。

アンケート結果を踏まえて、出席者一人ずつが授業運営での工夫や困っている点等について報告し、それらに対する活発な意見交換を行った。

【工夫している点】

- ・語学のクラスであるため、話す速度が適正かを学生に確認しながら、早いという声があれば出来るだけゆっくりと話すようにしている。

- ・授業内容が理系分野で、難しく思われてしまうとそれまでなので、基本的な内容に特化した授業を心掛けている。
- ・コミュニケーションが苦手な学生でも TALES では意見を述べてくれるので、実技科目ではあるが、学生からの声を拾うツールとして TALES を活用している。
- ・学生にもマイクを使わせて、出来るだけ学生の声が教室内で他の学生にも聞こえるようにしている。
- ・対面授業になったので、感染対策に気を付けながらもグループワーク・ペアワークが取り入れられるようになり、授業効果が上がった。
- ・出席は CS 出欠確認システムと実際の点呼を併用している。点呼の間は、前回のノートやワークシートを見せて復習の時間に充てている。
- ・提出されたレポートの好事例は、個人名を伏せたうえで授業内で公表、学生間で共有し、授業への意識を高めさせている。

【学生の様子】

学生間、あるいは学部間での学力レベルや意識の差が大きくなってきているという声が多かった。

- ・全く勉強しない学生がいて、困っている。評価基準を示して、これとこれをやりなさいと指示しても、全く取り組まない。
- ・授業には来るけど、なにもしない。
- ・間違えることに対する恐怖心が強いように感じる。
- ・レベル別クラスの初級だと、態度ややる気が中級と大きく異なる。教科書がレベルに合っていない。教科書付属のオンラインアクティビティがあるのに誰もやらない。

II. 学生ヒアリング

Ⅱ. 学生ヒアリングについて

1. 学生ヒアリングの実施

授業改善アンケートを中心に、授業、大学で学ぶ環境に関する学生の意見を聴く機会として、後期授業改善アンケート（11/7～12）以降に学生ヒアリングを実施した。各学部または学科のFD推進委員が、各学部・学科10名程度の学生を対象にヒアリングし、下記の項目についての意見を聴取した。

【ヒアリング項目】

- ・ 授業改善アンケートについて
（実施時期、回数、設問項目数、その他運営方法について）
- ・ シラバスについて
（記載されている内容について）
- ・ その他 授業、学習環境について
（日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対する意見、要望等）

2. 学生ヒアリングの実施

学生ヒアリングの集計結果については、FD推進委員会で報告し、情報共有をおこなった。その上で各学部長に報告し、学部または学科で必要と思われる事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼した。また、単学部・単学科に留まらない事項については、全学教育開発センターFD推進検討チームで対応案を作成し、FD推進委員会で検討した。

3. 学生ヒアリングの実施

(1) 授業アンケートについて

ア. 実施時期について (→現状のままが妥当)

- (文学部) ・適切である。
- (経済経営学部) ・意見なし。
- (法学部) ・現状でよいとの意見が多数であった。
- (心理学部) ・適切である。
- (現代生活学部) ・適切である。
- (教育学部) ・時期的にちょうどよい。
・遅い。フィードバックが返ってくる頃には授業が終わりかけており、意味がない。
・前期・後期の後半に実施してもらいたい。

イ. 回数について (→現状のままが妥当)

- (文学部) ・適切である。
- (経済経営学部) ・意見なし。
- (法学部) ・現状でよいとの意見が多数であった。
- (心理学部) ・適切である。
・増やしたほうがよい (最終回にもう一度)。
- (現代生活学部) ・数回増えても、あまり負担感はない。
- (教育学部) ・適切である。
・前期2回、後期2回 (1回目は最初の方に行い、2回目は、1回目の結果が改善されているかどうかを確認するために実施)。

ウ. 設問項目数について (→現状のままが妥当)

- (文学部) ・適切である。
・やや多い。
- (経済経営学部) ・意見なし。
- (法学部) ・「現状でよい」と「やや多い」が多数。
- (心理学部) ・適切である。
・少し多い。

- (現代生活学部) ・適切である。
- ・詳細が伝えにくいので、自由記述を設けてほしい。
- (教育学部) ・適切である。
- ・やや多い。

エ. その他の運営方法について

- (文学部) ・すべての質問がひとつの画面に収まっているほうがよい。
- ・気が付いた時には期限が過ぎていた。
- ・記述欄がほしい。
- ・「到達目標」についての質問項目があるが、アンケート上で確認できるように記載（あるいはリンク）してほしい。
- (経済経営学部) ・意見なし。
- (法学部) ・自由記述欄が欲しい。
- ・授業内のフィードバックが教員によって異なる。
- ・授業内で実施してほしい。
- (心理学部) ・設問数が適切で回答しやすい。
- ・TALES を用いたアンケート方法がよい。
- (現代生活学部) ・TALES を用いた回答で特に問題はない。
- (教育学部) ・意見なし。

(2) シラバスについて（記載内容についての意見）

- (文学部) ・スマホでは見にくいので、見やすい設定にしてほしい。
- ・TALES の各コースにシラバスのリンクをつけてほしい。
- ・シラバスに担当者のメールアドレスを明記してほしい。
- ・授業で使用するものだけを教科書に指定してほしい。
- (経済経営学部) ・意見なし。
- (法学部) ・スマホでの操作性・視認性が悪いので改善してほしい。
- ・表現が難解なものもあるため、平易にしてほしい。
- ・アクセスするまでのクリック数が多い。
- (心理学部) ・特になし。
- (現代生活学部) ・特になし。
- (教育学部) ・授業、試験内容について確認しやすい。
- ・スマホでも見やすいレイアウトにしてほしい。

(3) その他 授業、学習環境について

- (文学部)
- ・メールを送っても返信してくれない教員がいる。
 - ・TALES に課題をあげることを事前にアナウンスしない教員がいる。
 - ・出席キーワードを板書してほしい。聴き取れないことがある。
 - ・暑すぎる教室、寒すぎる教室があるので、調節してほしい。
 - ・換気の時間を決めてほしい。寒い。
 - ・キャンパススクエアの出席登録のボタンを大きくしてほしい（押し間違える）。
 - ・プロジェクターやモニターが故障している教室があるので修理してほしい。
 - ・Wi-Fi 接続を増強してほしい（出席登録に支障がある）。

- (経済経営学部)
- ・授業の進め方などは担当先生が工夫なさるので、受講しやすい。
 - ・問題は、受講生の私語、寝たりするので集中できない（モチベーションが下がる）。
 - ・先生は、私語に対して積極的に注意してほしい。
 - ・課題がやさしい教員が多く、課題の提出期間も余計に長く設定する場合がある。
 - ・確認テストなどは長く時間をとる必要がないと思う。逆に1～2日の間に済ませたい。
 - ・座学の授業では、教員の一方的な講義が多く、集中しようとしても眠くなる。
 - ・授業中、特定の人だけに質問し、答えを求めたり、やり取りをしたりするケースが多く、受講生、全員に目を向けながら講義をしてほしい。
 - ・期末レポートに対するフィードバックが欲しい（頑張った甲斐がない）。なぜ、どのような評価をしているのかが知りたい。
 - ・実学の授業（例えば、近鉄ビジネス入門など）は実際の現場で働く方の目線を通して、筋が通る話をしてくださるので飽きない。受講後に親との会話の種になったりするので、より深く知りたくなる。このような授業をたくさん開講してほしい。
 - ・取りたい授業が重複したりするのであきらめないといけ

ない。どうすればいいのかわからない。

- ・火曜日のある授業では、先生がマスクもせずに一方的に話をしているので、3回目までは頑張ろうと努力したが結局途中から諦めた。周りの受講者も寝たり、友達とはなしたりする。教員の態度も問題だと思う。

- ・コロナ禍で、理想ではあるが、アクティブラーニングのような科目、グループ研究のような校外活動が欲しい

(法学部)

- ・Wi-Fiの弱い教室がある。
- ・食堂でニュースを流してほしい。学修や就活に役立つと思う。
- ・授業で使用しないレジュメ・資料を無駄に多く配布しないようにしてほしい。
- ・学長目安箱を置いてほしい。
- ・自習室がほしい。

(心理学部)

- ・工事の音が大きくて、授業に集中できない。
- ・試験配置の座席はいつ解除されるのでしょうか。

(現代生活学部)

- ・ずっと席が一緒であるから途中で入れ替えて欲しい。窓側の席が寒いので前後でなく、左右が理想的である。
- ・イルミネーションに設備投資をするのであれば、その他の内容に使用して欲しい。

(教育学部)

- ・座席指定はしなくても良いのではないかな。四年生なので、授業中にうるさい人はほぼいない。学生側にも、目が悪くて見えないとか、体調を崩しやすいからドアの近くがいいなどの事情があると思う。
- ・対面授業になってから、ディスカッションの時間が少なく、教員が一方的に話すことが多いと感じる。
- ・パワーポイントやプロジェクターをもうすこし使ってほしい。
- ・節電と換気を同時に行うのはキツイ（仕方がないことだが、風邪をひいては元も子もない）。
- ・授業によっては、窓を閉め切って行っている。感染の恐れがありすこし怖い。
- ・演習室とピアノ個人レッスン室を増設してほしい。

4. 学生ヒアリングの実施

令和5年2月9日開催の第11回FD推進委員会において、前記の学生ヒアリング結果が報告された。その際、各事項について対応部署が明確にされ、各学部・学科等で直接対応するのがふさわしい事項については、2月17日付で、FD推進委員会から各学部長に資料を送付し、対応を依頼した。

■全学教育開発センターFD推進検討チームでの検討結果等

(1) 授業改善アンケートについて

ア. 実施時期について

おおむね「適切である」との意見が多かった。現行のアンケートは学期内の授業改善を目的としており、授業の中盤に実施し、その結果をふまえた後半の授業改善を期待するものである。時期が遅いとの意見も一部にあったが、授業開講後すぐに実施した場合、授業が必ずしも軌道にのっておらず、受講生も当該授業の全体像を把握していない場合もあると考えられ、授業の中盤に実施するのが適切であるとする。また、TALESを活用したことにより、結果の集計が迅速に行われるようになり、早期の授業改善に役立つようになった。

イ. 回数について

「適切である」との意見が多かった。「2022年度 授業改善アンケート集計結果」の「今後の課題」でもふれたが、学生の回答への負荷を軽減する目的で、実施を年一回とすることも検討している（たとえば、2023年度は前期、2024年度は後期に実施）。

ウ. 設問項目数について

「適切である」との意見が多く、次年度も現行の設問項目数とする。

エ. その他運営方法についての意見

- ・アンケート画面の視認性の向上や当該授業の「到達目標」を確認できるリンクの追加等についての要望があったが、これらについては技術的な問題であるので、関連部署と連携し検討する。
- ・「自由回答欄がほしい」という意見については、追加する方向で検討する。
- ・「気が付いた時には期限が過ぎていた」との意見もあったが、集計結果が出るまでの時間が格段に短縮されたこともあり、期間の延長を検討する。また、可能ならば授業内で実施することや授業内で学生の回答を促すように教員に依頼する。

(2) シラバスについて（記載内容についての意見）

- ・スマホでの操作性・視認性向上、TALESからシラバスへのリンク等の技術的な要望については、関連部署と連携し検討する。
- ・記載事項（担当者のメールアドレスの明記、実際に使用する教科書等）や平易な表現については、教学支援課を通して、シラバス作成時の注意点を徹底する。

(3) その他 授業、学習環境について

- ・授業運営に関する要望については、各学部長を通じて各教員に改善を依頼した。
- ・学園前キャンパスにおける工事の騒音については、2022年度内に工事が終了したため解消された。
- ・教室の機器の故障や不具合については、点検し修理した。
- ・学園前キャンパスの演習室とピアノ個人レッスン室の増設については、工事等を要する場合もあり、学生からの要望の度合や授業運営等を考慮し検討する。

以上

Ⅲ. F D フォーラム

Ⅲ. FDフォーラムについて

2022年度、全学教育開発センターでは計2回のオンラインでのFDフォーラムを開催した。また、外部のFDフォーラムについても積極的な参加を呼びかけた。詳細は以下の通りである。

1. 第1回（2022年9月20日）

日 時：令和4年9月20日（火）10：40～12：10
演 題：「学生を巻き込む教育」
講 師：中地 展生 教授（心理学部） 高田 照世 教授（文学部） 岩井 洋 教授（コーディネーター／全学教育開発センター）
形 式：ウェビナーによるオンライン講演形式
対象者：本学教職員
参加者：理事2名、教員66名、事務職員30名

本学は「実学の帝塚山大学」を標榜し、将来的に地域の発展を担う学生を育成するため、教育研究活動の成果を地域社会に還元することを目的とした多種多様な地域連携・産学官連携プロジェクトを推進している。コロナ禍で対面での活動が制限を余儀なくされるなかでも、本学では、ICTツールを活用するなどの工夫を重ね、地域の課題解決を主眼としたプロジェクト型学習を推進してきた。

これまでのプロジェクト型学習の経験知やノウハウを共有し、今後の学部教育に活用することを目的として、9月20日、令和4年度の第1回FDフォーラムを「学生を巻き込む教育」と題して開催。プロジェクト型学習の導入や展開方法について、多くの教職員が意見交換を行った。

今回のFDフォーラムでは、全学教育開発センターの岩井洋教授がコーディネーターを務め、各キャンパスからプロジェクトの実践例が1例ずつ紹介された。学園前キャンパスからは中地展生教授（心理学部）による「心理教育アプローチによるストレスマネジメント教育」について、東生駒キャンパスからは高田照世教授（文学部）による「獅子頭里帰りプロジェクト」について、プロジェクトにかかわった学生も交えての報告があった。

中地教授は、心理福祉学部から始まったプロジェクト型学習の歴史を振り返り、「学部で長く取り組んできたさまざまな教育活動研究の成果やノウハウの蓄積」や「プロジェクトにかかわってきた上級生から下級生へのサポートなどの人的なつながり」が今の活動に結びついているとの考えを述べられた。また、プロジェクトを「学生の想いを形にしていく教育」と位置づけ、実践の場や発表の場を提供する機会としていること、指導面においては、学生には企画書を書かせて考えを人に伝える文章力を養うように心がけていることを話された。

中地教授の報告の後に、若崎類さん（心理学部4年）から、先日の奈良県の未来事業提案で最優秀賞を受賞した「子どもたちの心の健康をサポートする～心理教育アプローチの活用」について発表があった。同提案は、学校でのいじめやうつなどの問題に「心理教育」によるアプローチを行うというもので、来年度から奈良県で事業化される予定。若崎さんは、プロジェクト活動が自分の自信になったとし、さまざまな人との協働を通して、他人の得意分野を理解してチームでものごとを進められる力が身についたと感想を述べられた。

高田教授からは、獅子頭里帰りプロジェクトにおける山口県柚木村との連携について説明があった。同プロジェクトは、コロナ禍のために研究フィールドワークに行けなかった昨年度、学生と院生が博物館実習で使用されていた本学所蔵の獅子頭を研究対象としたことから始まった。学生がおもしろいと感じるテーマを研究として深化させていった結果、獅子頭の3Dレプリカ化、「令和の獅子頭」開眼式の開催や山口県での展示出展など、多

方面へとプロジェクトが大きく進展していった経緯が紹介された。同プロジェクトにかかわった四倉健太郎さん、阿久津遥紀さん（ともに文学部4年）も登壇し、コーディネーターの岩井教授の質問に答える形で、山口と奈良を結んだ獅子頭について説明した。

高田教授も中地教授と同様に、プロジェクト経験者が下級生をサポートできたことが成功の要因のひとつであると分析。また、今回のプロジェクトの効果として、異なった学問分野や学年の学生が集うことにより、多様な視点やアイデアに触れることができたこと、学生の隠された才能に気づききっかけとなったことなどを挙げた。高田教授は、プロジェクトの成果は形に残るものにすることが大事であると話し、マスコミへの露出で周囲からの注目を浴びることが学生の自己肯定感の向上につながるの考えを示した。

両教授とも、プロジェクト型学習では「学生に任せる部分とそうでない部分の見極めが肝要」であると話し、「プロジェクトの意義は単位や褒賞ではなく、学生の経験値向上にある」と結論づけた。

報告の後には質疑応答があり、プロジェクト型学習の課題や推進方法について活発な意見交換が行われた。

2. 第2回（2023年2月22日）

日 時：令和5年2月22日（水）10：30～12：00
演 題：「多様化する学生支援－学内連携と合理的配慮について考える－」
講 師：式部陽子（心理学部講師・学生相談室運営委員会委員・学生相談室スーパーバイザー） 板倉千夏（学園前キャンパス学生相談室カウンセラー）
形 式：ウェビナーによるオンライン講演形式
対象者：本学教職員
参加者：教員74名、事務職員48名

本学では、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教育職員、事務職員などに必要な知識および技能を習得させ、その能力および資質を向上させることを目的としたSD研修を積極的に行っている。また、FD（Faculty Development）活動の一環として、年2回FDフォーラムを実施し、教員の教育方法の改善を通じて質の高い授業の実践に取り組んでいる。

令和5年2月22日、「多様化する学生支援－学内連携と合理的配慮について考える－」と題して、心理学部心理学科の式部陽子講師と学生相談室の板倉千夏カウンセラーを講師に迎え、令和4年度教職員研修会及び第2回FDフォーラムを同時開催した。

2021年5月に障害者差別解消法（（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）の改正法が成立し、私立大学においても「合理的配慮の提供」が義務化されることになった。すべての学生が充実した学びを享受し、豊かな人間関係を育むことができるように、大学での環境を整えることは、教職員が果たすべき責務である。

本学ではこれまでも、発達障害やさまざまな背景を持つ学生に対して適切な学生支援を行うための研修を行ってきた。今回のフォーラムでは、学生相談室主催で昨年度に行われた教職員研修会「全学で取り組む学生支援～多様化する学生への対応～」での内容をさらに発展させ、特別な支援や配慮の必要な学生の学びをどのように支えていくべきか教職員が意見を交わした。

式部講師や板倉カウンセラーからこれまでの取り組み事例や仮想事例が紹介され、学生に適切なサポートを行うための学内連携のあり方や合理的配慮について見解が示された。講演の後には時間が設けられ、すべての学生が、充実した教育や学生生活を等しく享受できるようにするために必要な視点や考え方、支援方法について、熱心な質疑応答がなされた。

3. 外部団体主催のFDフォーラム

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催する第28回FDフォーラム（：2023年2月18日（土）・23日（木・祝）・24日（金）・25日（土）/オンライン開催※一部ハイブリッド開催）への積極的な参加を呼びかけ、以下の3名が参加した。

- | | |
|--------|-----------------|
| ● 大西智之 | 全学教育開発センター教授 |
| ● 阿部咲子 | 現代生活学部食物栄養学科准教授 |
| ● 中島剛 | 教学支援課長 |

IV. 公開授業

IV. 公開授業について

1. 前期公開授業の実施

各学部および全学教育開発センターにて授業を公開する教員を選出し、以下のとおり6月・7月に公開授業を実施した。専任教員の参観申込率は91.1%、参観者の参観シート提出率は68.6%であった。

授業科目名	担当者	授業日	開講キャンパス
栄養教員論Ⅱ	新宅 賀洋	6月2日(木)3限	学園前
マーケティング論	薄井 健	6月7日(火)1限	東生駒
英語A(スポーツ・中級)	J. V. パウワー	6月8日(水)3限	東生駒
刑法	岡本 美紀	6月10日(金)3限	東生駒
心理療法論	山口 祐子	6月21日(火)2限	学園前
ゼミナールⅢ	吉田 雅昭	6月22日(水)5限	学園前
民俗学C	高田 照世	6月30日(木)2限	東生駒
ビジュアルコミュニケーション	大里 浩二	7月5日(火)3限	学園前
簿記入門B	松木 智子	7月6日(水)3限	東生駒
英語科教育法(1)	黒川 愛子	7月7日(木)2限	学園前
日本文学史2B(近現代文学)	西尾 元伸	7月7日(木)4限	東生駒
教育原論	元根 朋美	7月8日(金)4限	学園前
国際私法	黄 韜霆	7月14日(木)3限	東生駒
交通心理学	森泉 慎吾	7月20日(水)1限	学園前

2. 前期公開授業検討会

参観者は、参観した授業の「授業運営において学んだこと・参考になったこと」、「授業運営について質問したいこと」、「この授業を参観して参考になったこと、また、この授業がよりよいものになるようなアイデア」を参観シートに記載して提出し、これを基に、公開授業後に開催された各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において、以下のとおり報告ならびに意見交換が行われた。

<6月実施>

1. 対象講義について

講義名：民俗学C	教室：1301教室
担当教員：高田照世 先生	履修登録学生数：65名
講義日時：6月30日（木）2限目	当日の出席学生数：55名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第6回教授会	9月21日（水）	13名/13名

3. 授業担当者のコメント

対面に変わって一番戸惑ったのは、学生に元気がない（反応が少ない）ことである。民俗学では、知識を与えるだけではなく、事例の解釈も大事。どうやって学生からそれを引き出すかを一生懸命に考えた。毎回授業の最後に振り返りシートを書いてもらうが、提出受付を①その場で発表してもいい人、②教員が代読してもいい人（名前を言ってもいい）、③教員が代読してもいい人（名前を言わない）、④教員が読むだけにしてほしい人、の4つに分けた。その結果、①を選択する学生が徐々に増えていった。

4. 検討会で出された意見など

「学生にいろいろ考えさせる授業、理想的な授業。」
 「学生に問いかけ、話しかけておられる授業、一人ひとりに届いている感じがする。」
 「安心感をつくっておられる。」
 「授業のなかで考えさせ、最後に振り返りをさせるところが良いと思う。」
 「教える側と教えられる側の一体感がある。大教室の講義なのに演習のような雰囲気がある。上の学年の学びを想像できる内容。」

<7月実施>

1. 対象講義について

講義名：日本文学史2B	教室：1301教室
担当教員：西尾先生	履修登録学生数：80名
講義日時：7月7日（木）4限目	当日の出席学生数：65名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第6回教授会	9月21日（水）	13名/13名

3. 授業担当者のコメント

授業の最後に振り返りのためのペーパーを書かせるようにしている。次の内容につながりそうな質問をピックアップし、次回授業の冒頭で返答するようにしている。オンデマンド用につくったパワーポイントがあるが、板書にはパワーポイントにない効果があるので、意識的に行なっている。5回に1回、小テスト（5分程度）を実施している。参観者から「もっとメリハリがあったほうがいい」という意見があった。もっとメリハリをつけたいと思う。

4. 検討会で出された意見など

「文学に触れられる、心地よい時間だった。」

「前回の学生からのフィードバック、幅のある意見をうまく活用している。」

「授業冒頭で、前回授業の質問に答えるための時間をたっぷり取っているところが良かった。」

「学生との信頼関係がしっかりできている印象をもった。」

「板書のしかたが参考になった。大事なところを学生に書き取らせるのは良いと思う。」

経済経営学部

<6月実施>

1. 対象講義について

講義名： マーケティング論	教室： 6201 教室
担当教員： 薄井 健先生	履修登録学生数： 150 名
講義日時： 6月7日（火）1限目	当日の出席学生数： 120 名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第6回教授会	7月20日（水）	15名/17名

3. 授業担当者のコメント

- ・講義には Scrapbox というツールを使い、前回の課題に関する履修性の答えを紹介する。復習効果と学んだ理論・知識に対する理解を深める（復習による講義内容の浸透を確認する）
- ・基本的に学生数が100名を超える大規模授業にも関わらず、学生は静かに集中して授業を取る
- ・公開授業では「価格」を学ぶ回だったが、価格に対する理論と事例を紹介に構成されている
- ・講義後には、授業終了15分ほど前に、課題を実施している。学生の理解度を把握できるように設けている。

4. 検討会で出された意見など

- ・全履修性が特定（匿名）の学生の回答を先生が読み上げることでより明確な考え方を誘導する。また、選ぶところへ学生のレベルについてどのように配慮しているのか伺いたい（その質問に対して、特に配慮することより良い例、望ましい答えを読み上げることが再度考えさせる時間にする）
- ・Tales を使わずに Srapbox を使用する理由について伺いたい（Tales の方がより全体を把握するのに相応しいかもしれないが、1 週間の間に完璧に確認することに時間がかかるので別のツールを使用している）
- ・事例がわかりやすかった
- ・大規模にも関わらず履修性が静かで集中していて感心した
- ・人数が多く、毎回、課題とチェックに運営が大変だと思う

<7月実施>

1. 対象講義について

講義名： 簿記入門 B	教室：1201 教室
担当教員： 松木 智子 先生	履修登録学生数： 42 名
講義日時： 7月6日（水）3限目	当日の出席学生数： 32 名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第6回教授会	7月20日（水）	15名/17名

3. 授業担当者のコメント

- ・簿記学習は単調なところがありますので、学生が飽きないように多様な教材提示の方法を工夫
- ・パワーポイント資料をスクリーンに提示して授業をしますが、スライドに手書きで書き込みをすることで注意喚起できますので、ipad とアップルペンを活用して、手書きしてスクリーンに映し出しているなど。また、ipad を活用すると教室内を移動中でパワーポイントの操作や手書きによる書き込みが可能なので、教室の様々な場所に行って授業をする
- ・学生にさせているドリルの仕訳問題等も、PDF ファイルにしてスクリーンに映し出すことで見やすく出来ている

4. 検討会で出された意見など

- ・松木先生は授業内の ipad をもち、講義室内を移動しながらレジユメの解答を手かきするなど、学生にも参加意欲を高めるとともに、非常に授業に工夫をなさるところには感心しました。授業準備にどの程度の時間を必要とすると思いますが、その成果について伺いたい
- ・最新 ipad の使用方法が上手い

<6月実施>

1. 対象講義について

講義名：刑法	教室：6113教室
担当教員：岡本 美紀 先生	履修登録学生数：75名
講義日時：6月10日（金） 3限目	当日の出席学生数：65名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第3回教授会	6月15日（水）	12名/13名

3. 授業担当者のコメント

- ・刑法の総論部分は抽象的な内容なので、学生の関心を高めるため、新聞記事等を用いて具体的な事件・判例を多く紹介するように心がけている。
- ・学期中に2～3回のレポートを課して理解度を把握するよう努めている。

4. 検討会で出された意見など

- 授業を聴講した佐野教授、羽瀧教授、関准教授、馬場准教授から質問・コメントがあった。
- ・刑法総論は抽象的で難しい分野だが工夫は？
→具体例を多く用いている。
 - ・資料が豊富だがデータ配布と紙配布の長短は？
→学生の利便性を考慮し紙配布している。
 - ・授業回数に比して分野が広い科目と思うが、どうしているか？
→学説の争いを割愛して授業内容を取捨選択している。
 - ・新聞記事等の資料を豊富に使用し理解向上に努めている点、教員自身が楽しく話している点が参考になった。

<7月実施>

1. 対象講義について

講義名：国際私法	教室：6108教室
担当教員：黄 ジンテイ 先生	履修登録学生数：23名
講義日時：7月14日（木）3限目	当日の出席学生数：11名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第4回教授会	7月20日（水）	11名/13名

3. 授業担当者のコメント

- ・授業の冒頭に日本法と外国法の内容的に異なる点を紹介して問題意識を持たせたうえで、準拠法を決定する国際私法規定の説明に入り、さらに事例を使って規定の活用を練習させて、知識の定着と応用力の向上をはかっている。
- ・各テーマ5～7回の授業が終わると、「小括と小テスト」による理解度確認をおこない、次週フィードバックしている。全4回の小テストは、穴埋めから論述式に徐々に難易度をあげるようにしている。学期末の総復習テストに向けて理解度向上をはかっている。
- ・レジュメを充実させるようにしている。

4. 検討会で出された意見など

授業を聴講した福本教授、青田准教授からコメントがあった。

- ・授業規模を活かし一人一人の学生に質問をし、双方向型の講義を展開されている点が印象に残った。
- ・確かにレジュメが充実しており、明解、論理的、簡潔で非常に参考になった。
- ・授業の区切りのいいタイミングに休憩時間を入れて、集中力を維持するように工夫していた。

他に羽淵教授、関准教授から質問があった。

- ・休憩時間の効果は？
→休憩時間をとることで途中退室予防、教員学生の集中カリフレッシュ等の効果がある。ただし、10分とると緊張感がなくなるため、5分にとどめることが効果的。
- ・双方向のやりとりで工夫していることは？
→開講当初は学生も緊張しており答えられない学生もいるので、緊張をほぐし発言を促す声掛けをしたり、最初は平易な質問をして発言することに慣れさせたりするように工夫している。

心理学部

公開授業の検討会

実施日：2022年9月21日（水）教授会にて実施

山口先生の公開授業について

- ・授業内で Google フォームを用いて、リアルタイムの意見を聞いてる点が非常に参考になったとの意見があった。また、その際匿名で意見をまとめており、意見が述べやすい環境で非常に良いと意見があった。
- ・授業内で、その回に関連する単語を調べるワークがあり、非常に参考になったとの意見があった。
- ・その回の質問をその授業中にフィードバックされており、非常に参考になったという意見があった。
- ・非常に上手く ICT を活用されている点が素晴らしかったという意見があった。
- ・教科書の選定及び教科書の使い方が非常に上手であるという意見があった。
- ・学生の様子を見ながら、非常に良い流れで授業を進められたので非常に良かったという意見があった。

山口先生の工夫

- ・ Google フォームで意見を集める際には、匿名で自由な意見を述べられるような環境を整えている。
- ・ 教科書の価格を高くなりすぎないように配慮している。

森泉先生の公開授業について

- ・ パワポの資料が非常に充実しており、またデータに基づいた資料になっており、非常に心理学部らしく非常に良かったという意見があった。
- ・ 最近の話題などを取り入れた授業構成になっており、非常に興味深かったという意見があった。
- ・ 授業の進行がスムーズに流れおり、非常に良かったという意見があった。
- ・ 授業資料が穴埋め式になっており、学生が集中できる工夫がされているという意見があった。
- ・ 交通がテーマの授業なので現実社会と密接に関係しており、非常に興味深かったという意見があった。
- ・ 授業に非常に熱が入っており、とても良かったという意見があった。

森泉先生の工夫

- ・ 身近な話題をなるべく取り入れるようにしている。
- ・ 欠席した人のために、授業動画を TALES にアップロードしている。
- ・ 今後は、授業で外部実習などを取り入れてみたいとのこと。

他学部の先生の公開授業について

大里先生の授業

- ・ 授業資料が非常に洗練されており、確認テストの実施や授業の振り返りの時間がなどがあって非常に良かったという意見があった。
- ・ レポート課題の内容が非常に練られたものであったという意見があった。

高田先生の授業

- ・ 授業で学外への施設見学などがあり、非常に興味深かったという意見があった。
- ・ 授業内で学生が自分の意見を披露し、それについてディベートする場面があり、非常に興味深かったという意見があった。

現代生活学部

<6月実施>

1. 対象講義について

講義名：栄養教育論 II【1】	教室：16903 教室
担当教員：新宅 賀洋 先生	履修登録学生数：77 名
講義日時：6月2日（木）3 限目	当日の出席学生数：75 名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第7回教授会	9月21日（水）	20名／20名

3. 授業担当者のコメント

2年生の後期に栄養教育論Ⅰ、3年生の前期に栄養教育論Ⅱ、3年生の後期に栄養教育論Ⅲを履修する流れとなっており、臨床栄養学、給食経営管理論、公衆栄養学、応用栄養学の教科や国家試験につながるような内容としている。この教科は、各個人の目標設定が行え、改善策についても検討できる内容としている。分かりやすい授業になるように、例題にて学生個人が目標から計画設定ができるように進めている。定期試験では、授業内で学んだ内容を表現を変えて出題しているため、国語力(読解力)が必要となり、1割弱が単位取得に満たないことがある。

6名の教員が参加され、全員が現代生活学部であった。アンケート結果では、声が聞き取りやすい、配布資料や授業時間が適切であるとの意見があった。その他、学生が記述をしている最中に教員による説明があるので待ってはどうかとの意見があったので、そうしていきたい。

4. 検討会で出された意見など

- ・講義を行いながら個別に声をかけているため、個別に学生の状況を把握している。
- ・学生が問題を行っている中、前回のプリントなどを配布するなど工夫されている。

<7月実施>

1. 対象講義について

講義名： ビジュアルコミュニケーション	教室： 14201教室
担当教員： 大里 浩二 先生	履修登録学生数： 59名
講義日時： 7月5日（火）3限目	当日の出席学生数： 58名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第7回教授会	9月21日（水）	20名／20名

3. 授業担当者のコメント

2年生以上から履修でき、形や色、文字などの視覚的情報およびそれらを利用するメディアについて学ぶ授業である。色については後期の色彩学につながるような内容で、CIなどは後期のデザインマーケティングの授業にもつなげている。各回の講義後に小テストを実施し、次の回に解説を行っている。全15回の間あたりでレポート課題を設けている。レポート課題は、自分で良いと思うビジュアルコミュニケーションを掲げてそれを解説する。一方で、予想できる反論意見も掲げ、それに対して論理的に覆すことでレポートの締めくくりとする一種のディベートを文章で行わせている。

現代生活学部からの参加者はいなかったが、他学科から4名の方が参加された。アンケート結果によると、毎回の小テスト前に(5分ほど)の自分の考えをまとめる時間があるのが良かった。また、スライドが見やすかったなどの意見があった。

4. 検討会で出された意見など

現代生活学部からの参加者がいなかったため、検討できず。

教育学部

<6月実施>

1. 対象講義について

講義名：ゼミナールⅢ(11)	教室：18412 教室
担当教員：吉田 雅昭 先生	履修登録学生数：8名
講義日時：6月22日(水)5限目	当日の出席学生数：7名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数(任期制を含む)
第4回教授会	7月20日(水)	1名/1名

3. 授業担当者のコメント

・授業内容は、各学生の興味のある企業、業界について、グループワークの後に発表させるというものだが、情報交換では終わらず、発表者、質問者共に考えが深まるよう組み立てに工夫を凝らしている。(グループ内には、幼保に就職しない学生も含まれるが、ディズニーなどのエンターテインメントに興味のある学生もあり、幅広い希望進路に対応出来る内容となっている)

4. 検討会で出された意見など

特に無し。

<7月実施>

1. 対象講義について

講義名：英語科教育法(1)	教室：18311 教室
担当教員：黒川 愛子先生	履修登録学生数：48名
講義日時：7月7日(木)2限目	当日の出席学生数：45名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数(任期制を含む)

第4回教授会	7月20日(水)	9名/9名
--------	----------	-------

3. 授業担当者のコメント

毎回の授業の振り返りを提出させ、教員のフィードバックを加えて提出全員分をTALES上で読めるようにし、学びを共有することに力を入れている。また、模擬授業を個人で取り組ませ(受講生全員が実施)、発表者以外の受講生は児童として参加という形を取った。デジタルテキストを用いての活用発表も全員が行った。基礎的な英語力において課題がある学生もいるが、学生たちは非常に積極的に取り組んでいる。授業中には日本語 small talk と称して、4年生が採用試験に取り組む状況を伝えるよう努めている。

4. 検討会で出された意見など

- ・学生数に対して発表前の課題チェックが行き届いている。
- ・発表時など、授業中の学生の動きがスムーズであった。
(学生が授業の流れを把握出来ている)
- ・デモンストレーション他、学生が積極的に参加していた。
- ・小テスト後、学生は静かになった。授業の組み立てが良い。

全学教育開発センター

<6月実施>

1. 対象講義について

講義名：英語A(スポーツ・中級)2	教室：1306教室
担当教員：JACK VICTOR BOWER 先生	履修登録学生数：25名
講義日時：6月8日(水)3限目	当日の出席学生数：25名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数(任期制を含む)
第4回教授会	7月20日(水)	13名/14名

3. 授業担当者のコメント

- ・全体の評価が高くてありがたかった。
- ・デジタルとアナログを上手に使い分けられているという評価があってよかった。
- ・文・心理の中級以上のレベルの学生だったのでやりやすかった(しかし、低レベルの学生に対しても対応可のである)。
- ・リーディング/テキストを学生間の話し合いで確認しつつ理解を深めることを目指した。

- ・教科書忘れは減点（-1点）とした。
- ・英語だけのテキストは（学生にとって）難しいようだったので自作教材を用意した。
- ・（「教室の仕様はどうか。使いにくい不是吗。という質問があったがそれに対しては「まあ大丈夫です」という回答をした。

4. 検討会で出された意見など

- ・全く学修しない学生、出席はするがなにもしない学生が気になる。どうしてそのような心理になるのか。そしてそれをどのように指導するのが今後の課題となる。
- ・単位を簡単にもらえるという意識があるのではないかと。そう思ってもかまわないとする心理が問題である。学生間に意識の差を感じる。
- ・レベルの低下、受講態度の悪さが進んでいるように感じる。ただ、一方でプライバシーに配慮すればしっかり意見を書いてくる。プライバシーの配慮が必要だと感じた。
- ・基礎学力不足を感じる。
- ・やや難しいと感じる反応があった。講義のレベル設定が重要となる。

<7月実施>

1. 対象講義について

講義名： 教育原論	教室： 16608 教室
担当教員： 元根朋美 先生	履修登録学生数： 6名
講義日時： 7月8日（金）4限目	当日の出席学生数： 6名

2. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第4回教授会	7月20日（水）	13名/14名

3. 授業担当者のコメント

- ・「教育原論」ということで戦後の学校教育の問題を取り上げた。全体の評価が高くてよかった。
- ・他の授業とのつながりを意識した内容にしている。
- ・コロナ後の学校現場への対応を意識／に配慮した内容（小学校の、ICT への対応など）にした。
- ・双方向的なところを目指した良い等にした。また、「自分事」として捉えることについてはある程度できていると考えている。
- ・間違えることの「壁」、即ち間違えることを怖がり（嫌がり）無難な回答をしてしまう学生がいる。
- ・体力のない学生が目立つ。

4. 検討会で出された意見など

- ・「カンニング」（学生同士で教え合う）問題が気になった。
- ・グループワーク、ランダム指名の指導をした。また、ソーシャルディスタンスを意識した指導をした。
- ・出席の取り方、同時にコミュニケーションの取り方を TALES 等で工夫した。
- ・（低レベルの学生に対して）、講義の進め方におけるスピード、より丁寧な説明が必要だと感じた。
- ・コロナの学生に対しては別課題で対応した。
- ・（体調が悪かったのだろうか）授業を聞いていない学生がいる。しかし聞いていないようで聞いている学生がいるのも事実である。学生間の意識の差が気になる。

3. 後期公開授業週間の実施

後期は11月28日（月）から12月10日（土）までの2週間を公開授業週間とし、全専任教員が原則として全授業科目を公開すること、少なくとも1科目を参観することを前提に、以下のスケジュールで公開授業の決定、参観申込等が行われた。最終的な公開科目数は446科目、参観申込率は100%、参観者の参観シート提出率は86.7%であった。

- ・非公開とする授業科目の回答：10月3日（月）～10月8日（土）
※各教員は、公開に不適当な授業科目名、日時等を Google Forms より回答。
- ・公開科目一覧の配付：10月17日（月）～10月22日（土）
※上記の非公開科目を除いた公開科目一覧を配付
- ・参観申込：10月29日（土）〆切
※Google Forms で参観申込を行う。
- ・参観申込一覧表の配付：11月15日（火）～11月16日（水）
※公開授業担当者に参観申込者の一覧表を配付。

4. 後期公開授業検討会

参観者は、参観した授業の「授業運営において学んだこと・参考になったこと」、「授業運営について質問したいこと」を参観シートに記載して提出した。これを基に、公開授業後に開催された各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において、以下のとおり報告ならびに意見交換が行われた。その結果を受けて、FD 推進委員会においても検討会が実施された。

文学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第15回教授会	2月9日（木）	12名／13名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

▼授業公開者の意見

- ・眠気防止のための仕掛け（配布資料の空欄穴埋め）に対して好意的な意見があった。
- ・コメントペーパーの使い方（感想と疑問を分けて書く）に対して好意的な意見があった。
- ・レジュメの詳細さ、わかりやすさに対して好意的な意見があった。眠気防止のための書く作業を積極的に取り入れていきたい。

▼授業参観者の意見

- ・科目全体におけるその回の位置づけが明確に示されていた点、その回の構成が明確に示されていた点が非常に良かった。
- ・「学外実習」（1年次担当科目、文学部専任教員共担）の学習内容とうまくリンクされており、参考になった。
- ・毎回の授業を録画して、振り返りに使用されていて、参考になった。
- ・学生の発表に対して質問しやすい雰囲気をつまよく作っておられた。その授業の内容を専門的に学んでいるゼミ生が「ペースメーカー」としてうまく機能していた。

経済経営学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第15回教授会	1月18日（水）	18名／15名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

下記のように学生の集中力を維持させるための内容が多かった。

▼授業公開者の意見

- ・キャリアにつながるような学部講師の経験談や学生にとって興味深い現場の話を通して学生に職業をより具体化させる
- ・外部講師（ゲスト）をお招きしていたが、講義が面白くて集中力が維持できる。

- ・ 質疑応答にも質問したら加点するなど質問させるための工夫をする。
- ・ 質問に対して答えやすい環境作り、紙でも TALES でも毎回の講義に対する質問など意見を述べるようにする。
- ・ 毎回感想文を書かせたり、手を動かせる。

▼授業参観者の意見

- ・ 一見退屈になりやすいテーマなのでアクティブライニングの進め方が学生を飽きさせない。
- ・ 具体的なテーマについて議論とともに丁寧な解説をし、学生を理解を求めている。
- ・ 座席指定で学生の発言を促す
- ・ 発言するとインセンティブのような加点をしていたので活発に授業に参加していた。

法学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第13回教授会	1月18日（水）	13名／13名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

▼授業公開者の意見

- ・ 小テストを定期的実施し、理解度確認と復習の促しを図っている。
- ・ TALES で予復習や発展的自習に使用できる各種教材を掲示し、学生の自習促進を図っている。

▼授業参観者の意見

- ・ ある他学部の講義では、配布資料が詳細で一部は講義内で使用しないが、それらも意欲ある学生の発展的学習に役立つようなバランスのとれた構成の配布資料となっていた。
- ・ 法学は体系的な学習が重要だが体系全体を示す教材が重要である
- ・ 講義中の学生の発言促しの工夫が参考になった。
- ・ 紙で配布する印刷資料と TALES で掲示する電子資料の使い分けが重要である。

▼検討会の要点

今回の検討会では特にテーマを設けなかったため各種の論点が出たが、各種授業資料について複数の意見が出た。講義目的と学生の理解度を考慮し、紙配布と電子配布、資料の構成などのバランスを調整する必要があることに理解が深まった。

心理学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第15回教授会	2月9日（木）	7名／10名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

▼公開者の意見（工夫等）

- ・授業中に、リアルタイムで学生の意見を聴取したり、質疑応答を実施している（TALESやGoogleフォームを活用）
- ・アクティブ・ラーニングを意識して、リアルタイム参加型の小テストを実施している。
- ・集中力が継続できるように、授業途中で5分程度休憩を設けている。
- ・演習などの少人数科目では赤ペン添削など学生へのフィードバックを充実させている。
- ・参観者の先生方から、その授業の感想等をその場で頂くのも良いかもしれないです。

▼参観者の意見

- ・その日の授業内容について、授業最後に確認テストを実施している（復習をすぐに実施されており、非常に参考になった）。
- ・少し難易度の高いチャレンジ問題を用意し、自習を促すような工夫がされている。
- ・SDGsを意識して、資料をすべてTALES上にアップロードしている（紙使用量の削減）。
- ・TALESやGoogleフォームを上手く活用し、学生の興味・関心を引いている。
- ・心理学領域のみならず、様々な領域のテーマと絡めて、授業内容が構成されており、多角的な視点を培うことができるものであった。
- ・ゲストスピーカーとして、卒業生の参加などがあり、非常に趣向を凝らした授業運営であった。

▼その他の意見

- ・16602教室の後方モニターが比較的小さく、少し見にくい感じがある。
- ・学内Wi-Fiの繋がりが良くないことがある。

現代生活学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第14回教授会	1月18日（水）	20名／20名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

下記のような工夫をしながら授業を行っているとの意見があった。特に学生の集中力を維持させるような内容が多かった。

▼授業公開者の意見

- ・配布資料は穴埋め形式にしている。
- ・他の教科とつながるような内容にしていきたいと考えている。
- ・計算が多いのでゆっくりと進めている。
- ・就職につながるような自分の経験談や学生にとって興味深い現場の話などを交えて説明している。
- ・授業の間に1分ほどの体操を取り入れている。

▼授業参観者の意見

- ・マイクを持ち説明しながら学生の周辺をまわっていたので、次回から取り入れた。
- ・授業の合間に課題などの作業を加えていた。
- ・授業の前半に説明を行い、後半はチームワークで行う課題にてコミュニケーション能力向上につながっていた。
- ・30分ごとに切り替えて、3部構成にするなどのメリハリがあってよかった。
- ・レスポンスを行いながら理解につなげていた。
- ・学生の考えを引き出していくような内容であった。

教育学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数/全教員数（任期制を含む）
第15回教授会	2月15日（水）	11名/12名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

▼授業公開者の意見

算数・数学の内容を苦手としている学生は多く、中には中高時代に「見るのも嫌だった」という学生もいる。算数に対する「アレルギーの解消」がこの授業の目的ではないが、楽しいと感じることが何よりも大切で、それを将来、学生が教師になった時に子どもたちに伝えて欲しい、という願いを強く持ち、授業を行っている。

▼授業参観者の意見

- ・パワーポイントが一枚一枚丁寧に作り込まれ、クオリティが高かった。
- ・配付資料が大変充実しており、枚数も多かった。

- ・個々に応じた指導がされていた。
- ・ロイロノートが活用されていた。
- ・得手不得手のある科目は、授業展開の難しい部分があると思うが、アクティブラーニングを十分意識した内容だった。
- ・SPI が授業内に取り入れてられており、就職対策にもつながるような構成の工夫が見られた。
- ・塩分計算などは、基礎的な算数だが、苦手な学生も少なくないため、個別チェックを入れるなどの指導が行き届いていた。
- ・大変熱意の感じられる授業で、本質を見せていただいた。

全学教育開発センター

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 10 回教員会議	2月 15 日（水）	12 名／14 名

2. 検討会で出された意見など（必要に応じて、適宜様式をご変更ください。）

参加全教員が参観した授業について所感を表明。それに関して質疑も実施した。

▼授業公開者の意見

- ・大人数のクラスのため資料は基本デジタル。前の学生は書き込みができているが後ろの学生はただ聞いているだけ。学生の書き取りができる資料が必要だと感じた。
- ・厳しさの中に優しさ・ユーモアのある授業だったとのコメントをいただいた。
- ・全体的にまとまっていた。学生に発表させるということを評価された。
- ・学生がアクティブに参加できる授業になっていた。事前の下準備が活かされているとの評価をいただいた。

▼授業参加者の意見

- ・個人・ペア・グループの活動をバランスよくやっている。授業の資料が手作りでもとてもよかった。
- ・全体的にまとまっていた。学生に発表させるというものが評価できる。
- ・学修アプリを使用。学生たちもたのしくやっていた。
- ・資料の仕込みがともしっかりしている。学生のやる気のバラツキがあり。
- ・クラス自体がピリッとしているがユーモアもあってバランスがよい。
- ・何を身につけてほしい、ここを学んでもらいたいを含めて課題提出ができていて、学生自身が考えるような充実した授業になっている。

▼検討会の要件

- ・学んだものの目標を授業の中で説明することを参考にさせてもらいたいということに対して、学生自身が考えられるような場が必要。今後取り入れたいという回答があった。
- ・学生との言葉のキャッチボールがあればよいとのコメントに対して今後工夫をしていきたいとの回答があった。
- ・授業自体はまとまっているとの評価をいただいたが、学部によっては学生のやり取りを行うのが難しいと感じている。今後の課題としたい。

V. F D推進委員会

V. FD 推進委員会

1. F D 推進委員会

[2022年度]

F D 推進委員会	委員長	大西 智之	(全学教育開発センター長)
	委員	河口 充勇	(文学部)
		姜 聖淑	(経済経営学部)
		関 誠	(法学部)
		永石 高敏	(心理学部)
		阿部 咲子	(現代生活学部)
		宮田 知絵	(教育学部)
		川添 一郎	(全学教育開発センター)
		米田 準	(大学事務局次長)
		島本 英一郎	(教学支援課長・東生駒キャンパス)
		中島 剛	(教学支援課長・学園前キャンパス)
事務局スタッフ		榎井 謙一	(教学支援課)
		山崎 アヤコ	(教学支援課)

2. 活動報告

4月14日	第1回FD推進委員会
5月12日	第2回FD推進委員会
6月3日~6月9日	前期授業改善アンケート実施
6月9日	第3回FD推進委員会
6月~9月	各学部教授会等および全学教育開発センター教員会議において 「前期授業改善アンケート結果を受けての学部内FD」実施
7月14日	第4回FD推進委員会
8月23日	第5回FD推進委員会
9月8日	第6回FD推進委員会
9月20日	第1回FDフォーラム 演 題：学生を巻き込む教育 講 師：中地展生 教授（心理学部） 高田照世 教授（文学部） 岩井洋 教授（コーディネーター／全学教育開発センター）
11月7日~11月12日	後期授業改善アンケート実施
10月13日	第7回FD推進委員会
11月10日	第8回FD推進委員会
11月28日~12月10日	後期公開授業週間
12月	学生ヒアリング実施（各学部・学科）
12月15日	第9回FD推進委員会
12月21日	各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において 「シラバス作成のためのFD」実施
1月12日	第10回FD推進委員会
2月9日	第11回FD推進委員会
2月22日	第2回FDフォーラム 演 題：「多様化する学生支援 - 学内連携と合理的配慮について考える -」 講 師：式部陽子 講師（心理学部講師・学生相談室運営委員会委員 ・学生相談室スーパーバイザー） 板倉千夏氏（学園前キャンパス学生相談室カウンセラー）
3月9日	第12回FD推進委員会

以上

3. 帝塚山大学 F D 推進委員会規程

制定 令和3年2月26日

(趣旨)

第1条 この規程は、大学設置基準第25条の3（大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）及び大学院設置基準第14条の3（大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）に基づき設置する帝塚山大学 F D 推進委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会は、本学における教育の資質向上を図るために組織的に取り組む活動（以下「F D」という。）を推進するとともに円滑な実施を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、前条に掲げる目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

F D の調査研究に関すること

F D の企画、立案及び実施に関すること

F D に関する講演会及び研修会等の企画・立案・実施に関すること

学生による授業改善アンケートの企画・実施・分析に関すること

各学部及び大学院研究科等が行う F D の支援に関すること

その他前条の目的達成のために必要な業務

(構成)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

全学教育開発センター長（以下「センター長」という。）

帝塚山大学全学教育開発センター規程第4条第1項第2号及び第3号に定める職員のうちからセンター長が指名した者

学部教授会から選出された各学科1名の教員

事務局長（次長）

教学支援課長

その他センター長が必要と認めた教職員

(任期)

第5条 前条第1項第1号、第2号、第4号及び第5号の委員の任期は、その職にある期間とし、異動が生じた場合には、後任者が引き継ぐものとする。

2 前条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、2年とし、異動が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、センター長がその任にあたる。

(運営)

第7条 委員長は、委員会を代表するとともに、委員会を招集しその議長となる。

2 委員長は、必要に応じて、委員以外の教職員に委員会への出席を求め、その報告又は意見を聴くことができる。

3 その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会においてこれを定める。

(幹事)

第8条 委員会に幹事を置き、教学支援課長をもってこれに充てる。

(他委員会等の連絡調整)

第9条 委員長は、全学教育開発センター運営委員会等、関係の各種委員会等との連絡を密にし、委員会の任務遂行の実をあげるよう努めなければならない。(改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

VI. 全学教育開発センター FD推進検討チーム

■ F D 報告集の内容・構成に関する検討

前年度と同様の構成とした。

■ その他の検討

2022 年度全学教育開発センター F D 推進検討チームの活動の総括を行った。

2. 帝塚山大学全学教育開発センター規程

制定 平成24年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、帝塚山大学学則第63条第2項の規定に基づき、帝塚山大学全学教育開発センター（以下「センター」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、本学における全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な整備・改善の推進及び支援、並びにFD推進の企画及び大学教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育内容・方法の整備・改善に関わる企画、推進及び支援に関すること
- (2) 全学に共通する教育システムの企画及び開発に関すること
- (3) 全学的なFDの企画及び推進に関すること
- (4) 全学的な学習支援の企画及び推進に関すること
- (5) その他全学的な教育に関する必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) センターに配属された本学の専任教員（任期制教員を含む）
 - (3) その他センター長が必要と認める教職員
- 2 センター長の選出、任期等に関する規程は別に定める。
- 3 センターに必要なときは副センター長を置くことができる。副センター長はセンター長が指名する。

(職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

(委員会・教員会議)

第6条 センターに、第3条に定める業務の円滑な実施に関する重要な事項を審議するため、全学教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）及び全学教育開発センター教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

第7条 運営委員会及び教員会議に関する事項は別に定める。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、教学支援課において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規程の制定に伴い、「帝塚山大学全学共通教育センター規程」,
「帝塚山大学FD推進室規程」及び「帝塚山大学学習支援室規程」（平成17年7月29日制定）は、平成24年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、平成25年6月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。